



阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム 2025

2021（令和3）年 2月策定

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会



はじめに

2016（平成 28）年 3 月に、政府により「明日の日本を支える観光ビジョン」がとりまとめられ、訪日外国人旅行者数を 2020（令和 2）年までに 4,000 万人とすることが新たな目標として掲げられた。同ビジョンでは「日本の国立公園を世界水準の“ナショナルパーク”としてブランド化を図る」ことが重要な取組の柱として掲げられ、それを受け環境省により「国立公園満喫プロジェクト」（以下、「満喫プロジェクト」という。）が立ち上げられた。

満喫プロジェクトでは、訪日外国人を惹きつける取組を計画的・集中的に実施し、2020（令和 2）年までにそれまでの 2 倍以上の 1,000 万人に増やすことが目標とされた。この目標を達成するため、全国の国立公園の中で先行的・集中的な取組を実施する国立公園の一つとして、阿寒摩周国立公園が選定され、阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会において 2016（平成 28）年度から 2020（令和 2）年度までの 5 年間を計画期間とした“ロードマップ”として阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム 2020（以下「ステップアッププログラム」という。）を策定し、それに基づき関係機関で連携しながら取り組みを進めてきたところである。

しかしながら、2019（令和元）年末から徐々に感染が拡大している新型コロナウイルスの影響で、訪日外国人の旅行は激減し、国内旅行も今後の見通しが立たない状況が続いている。いずれ回復すると想定される観光需要への準備を進めるととともに、この間にウィズコロナ・ポストコロナ時代の新たな観光スタイルに地域として対応していくことが求められている。

満喫プロジェクトについては、2021（令和 3）年以降も継続し、新たな展開を図っていくという方針が示されており、新型コロナウイルス感染拡大の影響を乗り越えながら、国立公園の新たな価値を提供しつつ、新型コロナウイルス終息後のインバウンド復活を見据えて、受け入れ環境整備等を着実に進めていく必要がある。

目 次

はじめに

1. 現状	1
(1) 阿寒摩周国立公園の特徴	1
(2) 阿寒摩周国立公園の利用の現状	5
(3) 2020 年までの主な取組成果	10
(4) 今後の課題	15
2. 基本方針	19
(1) 基本的な考え方	19
(2) 利用推進の方向性	20
(3) 取組の方針	21
(4) ターゲット	22
3. 目標	24
4. 行動計画	28
(1) 重点的な取組	28
(2) 個別の取組	34
5. 効果検証及び取組の改善	34
(1) 進捗状況の確認	34
(2) 取組へのフィードバック	34

1. 現状

(1) 阿寒摩周国立公園の特徴

阿寒摩周国立公園は、「火山と森と湖」が織りなす雄大な景観を有する国立公園である。現在も噴気活動が続ける火山性の山々、それらを包むように広がる天然林、山麓には阿寒湖、摩周湖、屈斜路湖に代表される湖が点在する。その豊かな自然の中で希少種を含む多くの野生動植物が育まれ、公園内の各地で、それぞれ特徴的な温泉が湧出している。公園内にはアイヌコタンがあり、アイヌ民族の伝統文化が伝承継承されている。

このような「原生的な自然」を舞台に、季節ごとに利用者のニーズなどに応じて、登山やトレッキング、森林散策、ドライブ、カヌー、釣り、スキー、キャンプ、温泉浴など様々な利用が進められている。



イソツツジと硫黄山



神の子池



屈斜路湖の雲海



摩周湖



オンネトー



雌阿寒岳



阿寒湖温泉



阿寒湖のマリモ



アイヌ古式舞踊

＜阿寒摩周国立公園 data＞

指定年月日	1934（昭和 9）年 12 月 4 日 ※2017（平成 29）年 8 月 8 日に「阿寒国立公園」から名称変更
公園面積	91,413ha
火山地形	阿寒湖カルデラ、屈斜路カルデラ（日本最大級の規模） 雄阿寒岳（1,371m）、雌阿寒岳（1,499m）、藻琴山（1,000m）、硫 黄山（508m）
湖沼	阿寒湖、摩周湖（世界有数の透明度）、屈斜路湖、オンネトー、 神の子池
植物	トドマツ、エゾマツ、イソツツジ、メアカンキンバイ、 阿寒湖のマリモ（国指定特別天然記念物）
動物	ヒグマ、エゾシカ、キタキツネ、エゾタヌキ、エゾリス クマゲラ、オジロワシ、シマフクロウ、オオハクチョウ
温泉	阿寒湖、雌阿寒、川湯、仁伏、砂湯、池の湯、コタン、和琴、 オンネトー湯の滝（国指定特別天然記念物）
文化	アイヌ文化



池の湯



カヌー



エゾツツジ



まりも祭り



双湖台



西別岳



屈斜路湖



キタキツネ



オンネトー湯の滝

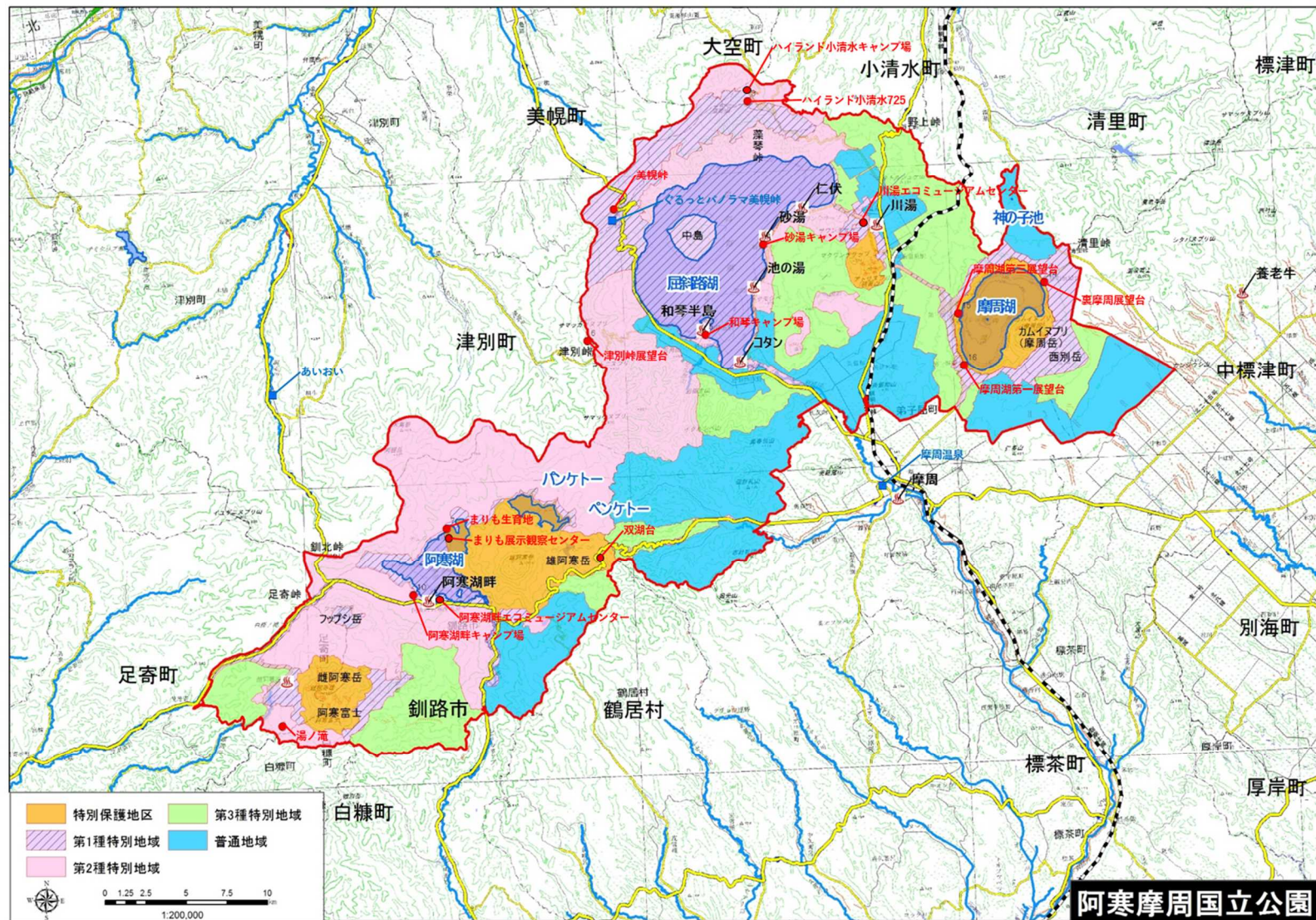


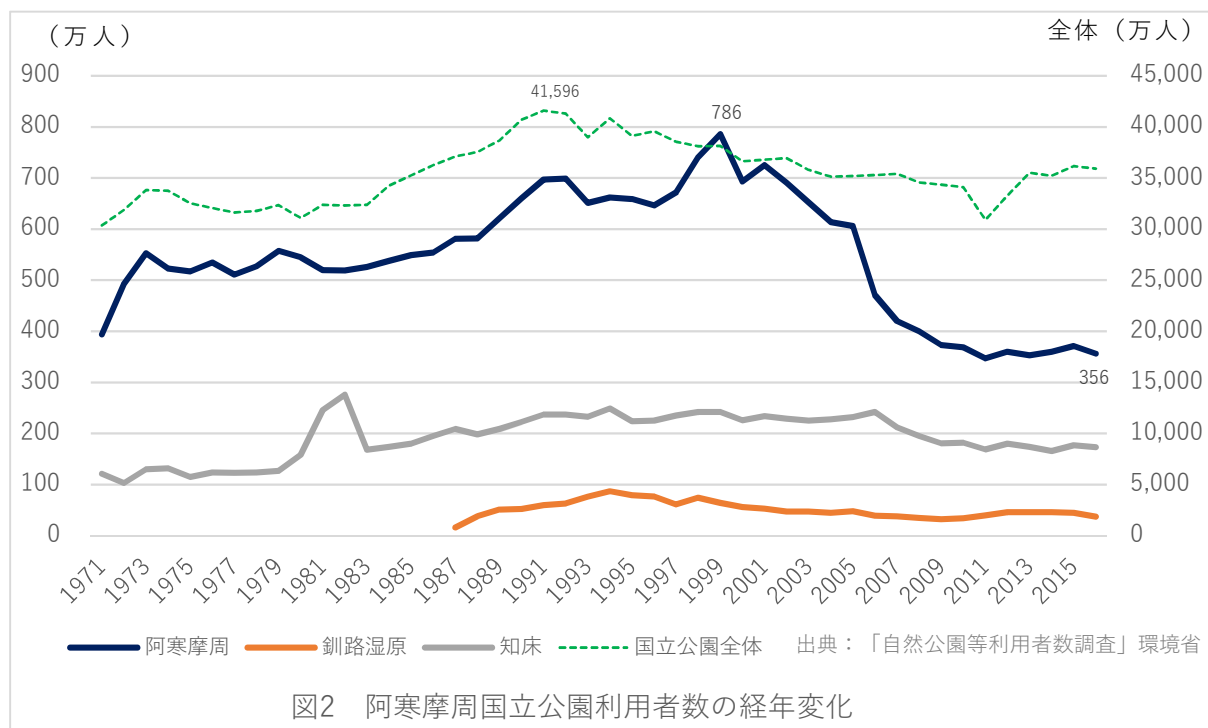
図1 阿寒摩周国立公園区域図

(2) 阿寒摩周国立公園の利用の現状

1) 国立公園の利用者数

阿寒摩周国立公園の利用者数は、調査が開始された 1971 (昭和 46) 年から増加を続けてきたが、1999 (平成 11) 年の 786 万人をピークに、以降は減少傾向にある。2016 (平成 28) 年の利用者数は、356 万人であった。周辺の国立公園と比較して最も利用者数の多い国立公園であるが、1999 (平成 11) 年以降の減少傾向は最も激しい。(図 2)

阿寒摩周国立公園の主要な宿泊地である阿寒湖温泉及び川湯温泉の利用者数、宿泊者数の長期的な推移をみると、1990 年代までは阿寒湖温泉と川湯温泉の利用者数はほぼ同等程度であったが、川湯温泉は 1991 (平成 3) 年に宿泊者数のピーク (約 56 万人) を迎え、以降は減少を続け、現在では 10 万人程度まで落ち込んでいる。阿寒湖温泉は 1998 (平成 10) 年に宿泊者数のピーク (約 103 万人) をむかえた後、2010 (平成 22) 年頃までは減少傾向が続き、その後は 50~60 万人程度で推移している。(図 3)



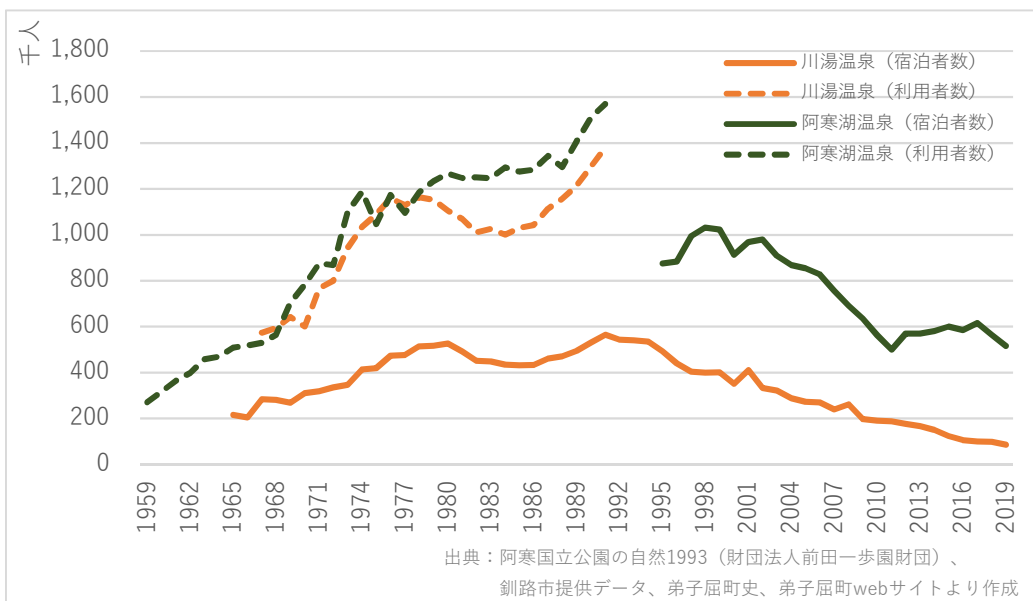
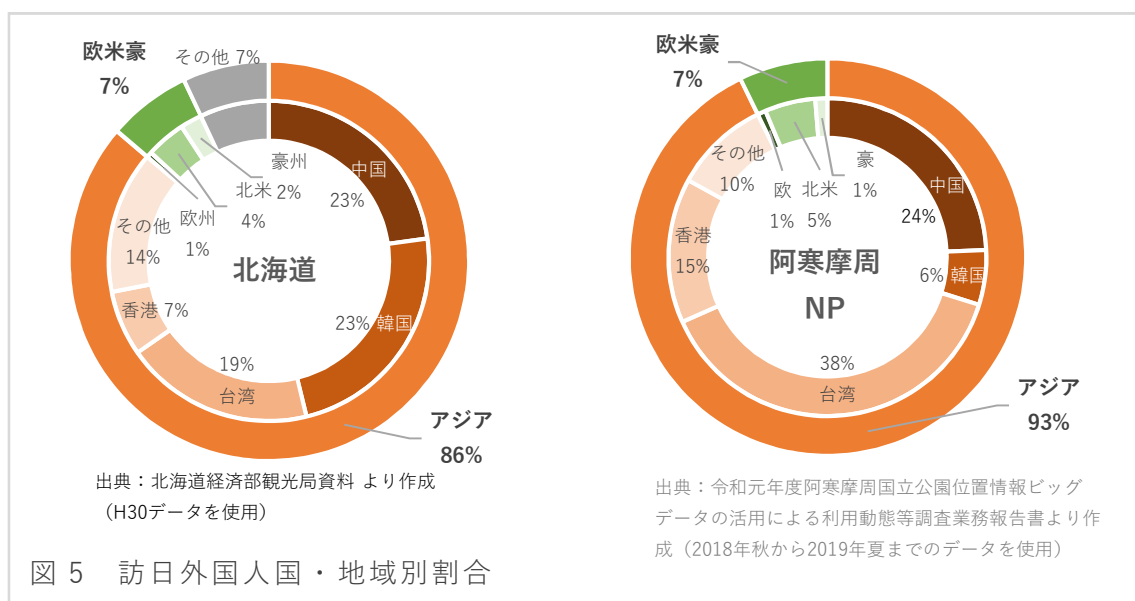
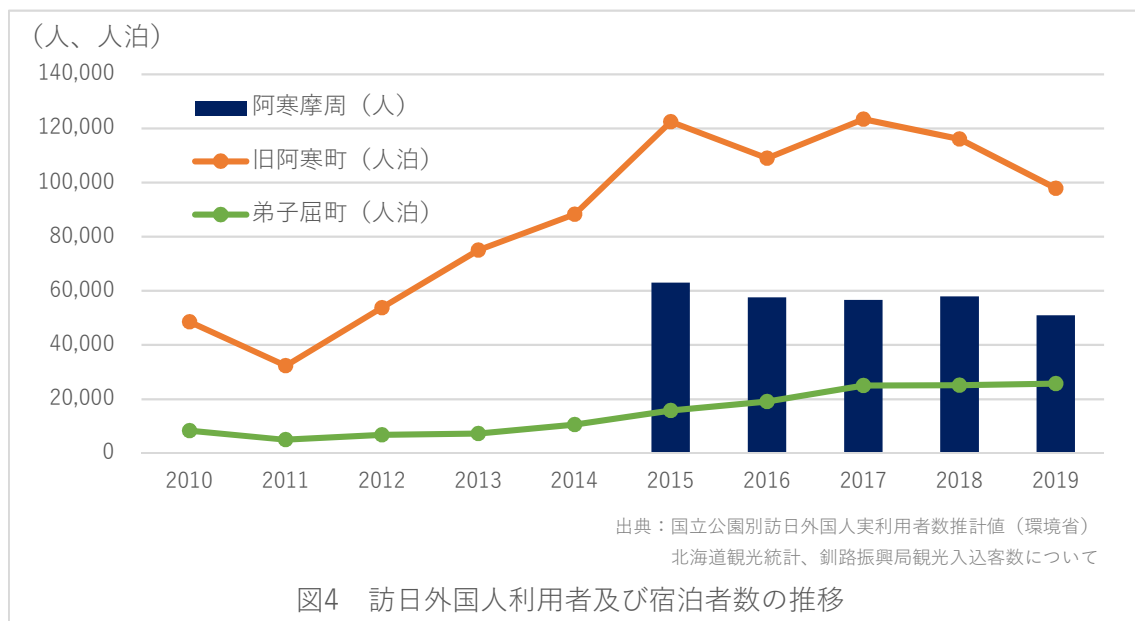


図3 阿寒湖温泉及び川湯温泉の利用者数・宿泊者数の推移

2) 訪日外国人利用者の現状

阿寒摩周国立公園の訪日外国人利用者数の推計値では、2015（平成 27）年の 6.3 万人から、2019（令和元）年の 5.1 万人と減少しているが、利用者数については推計方法に課題があり、観光統計として一般的に用いられている延べ宿泊者数で現状を把握する方が適切と考えられる。

宿泊利用者の多くを占める阿寒湖温泉（旧阿寒町）及び弟子屈町の訪日外国人延べ宿泊者数の推移をみると、阿寒湖温泉については満喫プロジェクト開始前から急速に訪日外国人が増加しているが、2015（平成 27）年以降は 10 万人から 12 万人程度で推移している。一方、弟子屈町の訪日外国人利用者数は若干の増加傾向が続いている。（図 4）



国・地域別に見ると、阿寒摩周国立公園はアジアの割合が大きく特に台湾からの入り込みが多いことが特徴である。北海道の訪日外国人の国別割合では韓国が多いが、阿寒摩周では 6%程度にとどまっている。欧米豪の割合は現在 7%程度であるが、年々着実に増加しつつある。(図 5)

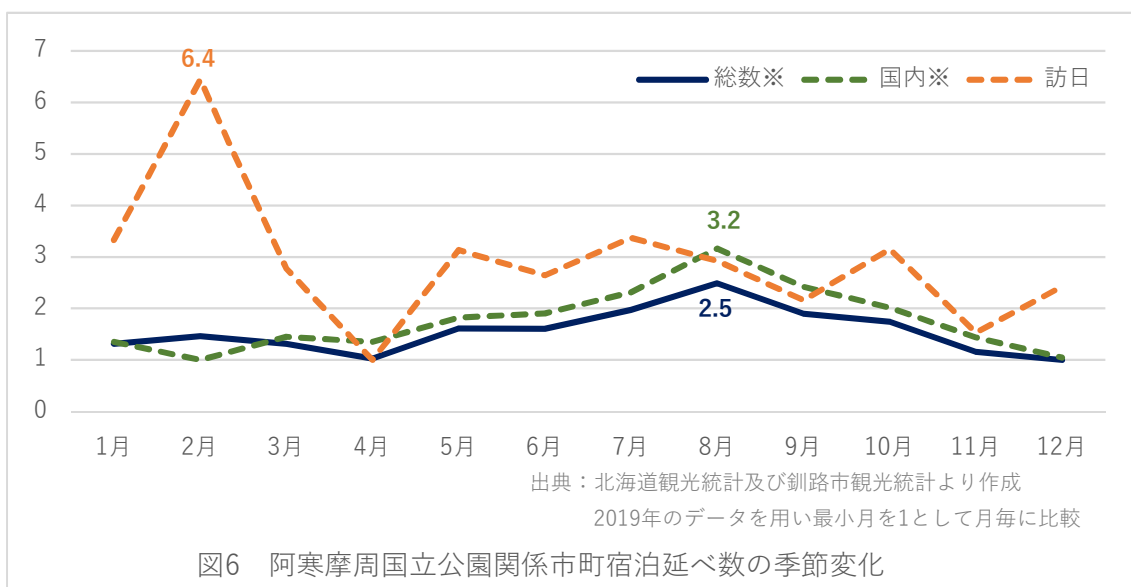
3) 国立公園利用者数の季節変化

阿寒摩周国立公園を訪れる利用者の季節変化を比較すると、訪日外国人では 2 月が最も多く、国別割合の約 9 割を占める中国、台湾、韓国等のアジア圏では、旧暦の正月が春節という祝日にあたり、その前後の大型連休を利用する旅行者が多いことが要因と考えられる。また、比較的温暖な気候の地域が多いアジア圏ではなかなか見られない雪景色を目当てに来る旅行者も多いと考えられる。

一方で、国内旅行では 8 月が最も多いが、2 月が最も少ないのが訪日外国人の動向とは対称的である。北海道全体では、冬は夏に次いで観光客の多いシーズンであることと比較しても、本国立公園の冬の国内旅行の少なさは特徴的である。

訪日外国人と国内旅行を含めた総数で比較すると、国内旅行と同様に 8 月が最も多いが、国内旅行の少ない 2 月は訪日外国人に牽引されてある程度の旅行者数を確保できている。国内旅行だけだと最小月と最大月は 3 倍以上の差があるが、訪日外国人を含めた総数で比較すると 2.5 倍にとどまっており、訪日外国人旅行が繁閑差の解消につながっている。

(図 6)



4) 旅行の質に関する指標

満足度、支出額、宿泊数、リピーター率等の旅行数だけではない旅行の質に関する指標について、国立公園を訪れた旅行者に実施したアンケート調査によると、阿寒摩周国立公園では満喫プロジェクトに先行的・集中的に取り組む8公園の平均に近いか少し上回る結果となった。(表1)

表1 阿寒摩周国立公園訪問者の旅行の質に関する指標

	阿寒摩周		8公園平均		
	外国人	日本人	外国人	日本人	
満足度（大変満足）	48.1	32.4	43.9	34.7	(%)
支出額	68,633	19,382	65,046	27,866	(円)
宿泊数（公園内）	1.6	1.2	1.4	1.1	(泊)
（公園周辺含）	3.6	2.1	3.4	1.9	(泊)
リピーター率（2回以上）	13.6	63.9	13.7	57.8	(%)
（10回以上）	0.7	19.2	1.0	11.1	(%)

出典：令和元年度「国立公園満喫プロジェクト」推進業務の結果より

(3) 2020年までの主な取組成果

1) アドベンチャートラベル(AT)の推進

アドベンチャートラベル(以下、「AT」という。)を重要なターゲットとして位置づけ、体験・滞在型旅行であるATを北海道の新たなブランドとして定着させる取組を推進し、積極的な誘致活動の展開により、Adventure Travel World Summit(ATWS)の2021(令和3)年北海道開催が決定した。

<ATに関するこれまでの主な動き>



○アドベンチャートラベル（AT）とは

- ATは「自然、アクティビティ、異文化体験の3つの要素のうち2つ以上で構成される旅行」として定義されている。
- ATは地域の自然環境や文化等を資源としていることから、大人数の過剰な利用によりそれらの資源を損なうことなく、それらを保全しながら持続的に活用していくことが重視されている。
- ATTA（Adventure Travel Trade Association）の調査によると、AT旅行者は一人当たりの旅行消費額は通常の旅行者より約1.7～2.5倍高いというデータもあり、より少ない人数の利用で環境負荷を抑えつつ地域の活性化につなげていくことが期待できる。（図7）
- 阿寒摩周国立公園を含むひがし北海道エリアは、国内でも屈指の雄大な自然とそこで体験できるアクティビティ、際立った独自性を持つアイヌ文化を有しており、海外の競合地域と比較しても優位性を持つと考えられている。

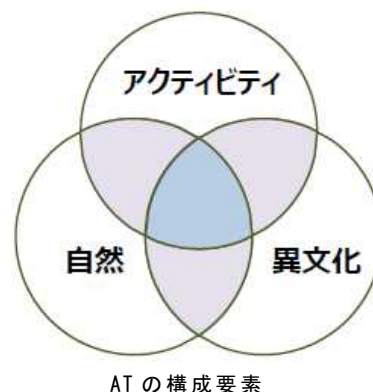
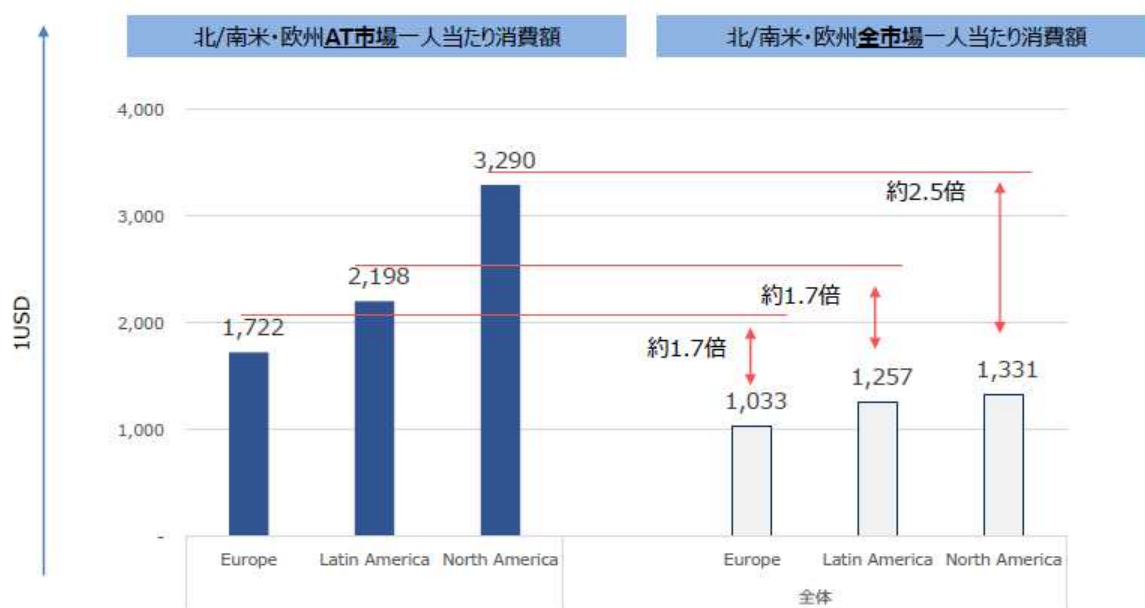


図7 AT市場と全市場の一人あたり消費額の比較



出典：ATTA 資料、Euro-monitor、各種データより北海道経済産業局、JTB 総研作

2) 国立公園の新たな活用

これまで未利用だった国立公園の資源やエリアについて、自然環境の保全も踏まえた新たな活用を推進した。

<新たな活用の例>

■カムイルミナ

- ・2019年7月より、阿寒湖畔ボッケ遊歩道を活用し、アイヌの物語から自然との共生の大切さを伝える、夜のデジタルアートプログラム「カムイルミナ」が開始(約3万4千人が参加)



■アトサヌプリトレッキングツアー

- ・2020年10月より、入山禁止となっていたアトサヌプリにおいて、エコツアーリズム推進法に基づくルールを導入したガイド付き限定のトレッキングツアーが開始



■川湯の森ナイトミュージアム

- ・2020年10月に、川湯及び硫黄山において、夜の自然を楽しみながら学習する「川湯の森ナイトミュージアム」を社会実験として実施



■屈斜路外輪山トレイルの整備

- ・美幌地区三町広域観光協議会が屈斜路湖外輪山のトレイル(藻琴山～美幌峠～津別峠)を検討し、調査ルートを整備(2020年)



■裏摩周一神の子池トレイルルート

- ・2019年6月より、裏摩周展望台から神の子池までのガイド付きトレイルを開始(今後MTBコースとしても検討)



■阿寒湖滝口線歩道の整備

- ・阿寒湖南岸を歩き、滝口までつなぐ新たな歩道(滝口線)を整備(2020年度一部区間供用開始)

■マリモ学習ツアー

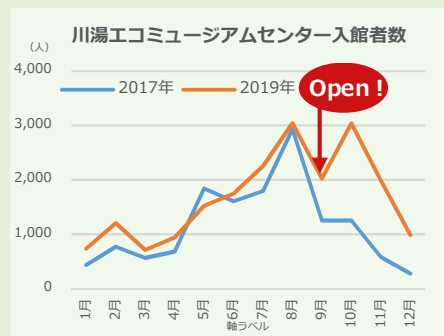
- ・阿寒湖のシンボルであるマリモを体験的に学習できるツアーについて関係者間で議論し、実施内容及び体制を検討(2016～2020年度)

3) 官民連携による民間投資の促進

国立公園満喫プロジェクトを契機として、地域内外からの新たな民間投資を促し、地域の活性化に向けた取組が進んだ。

■川湯エコミュージアムセンター（EMC）の民間カフェ導入

- ・2019年8月より、川湯 EMC の2階に設置したカフェスペースで公募により選定した民間事業者が営業開始



■川湯温泉廃屋撤去後の跡地活用

- ・2020年9月に川湯温泉街の廃屋となったホテル1棟を撤去し、跡地を活用した地域活性化のためのイベントを実施



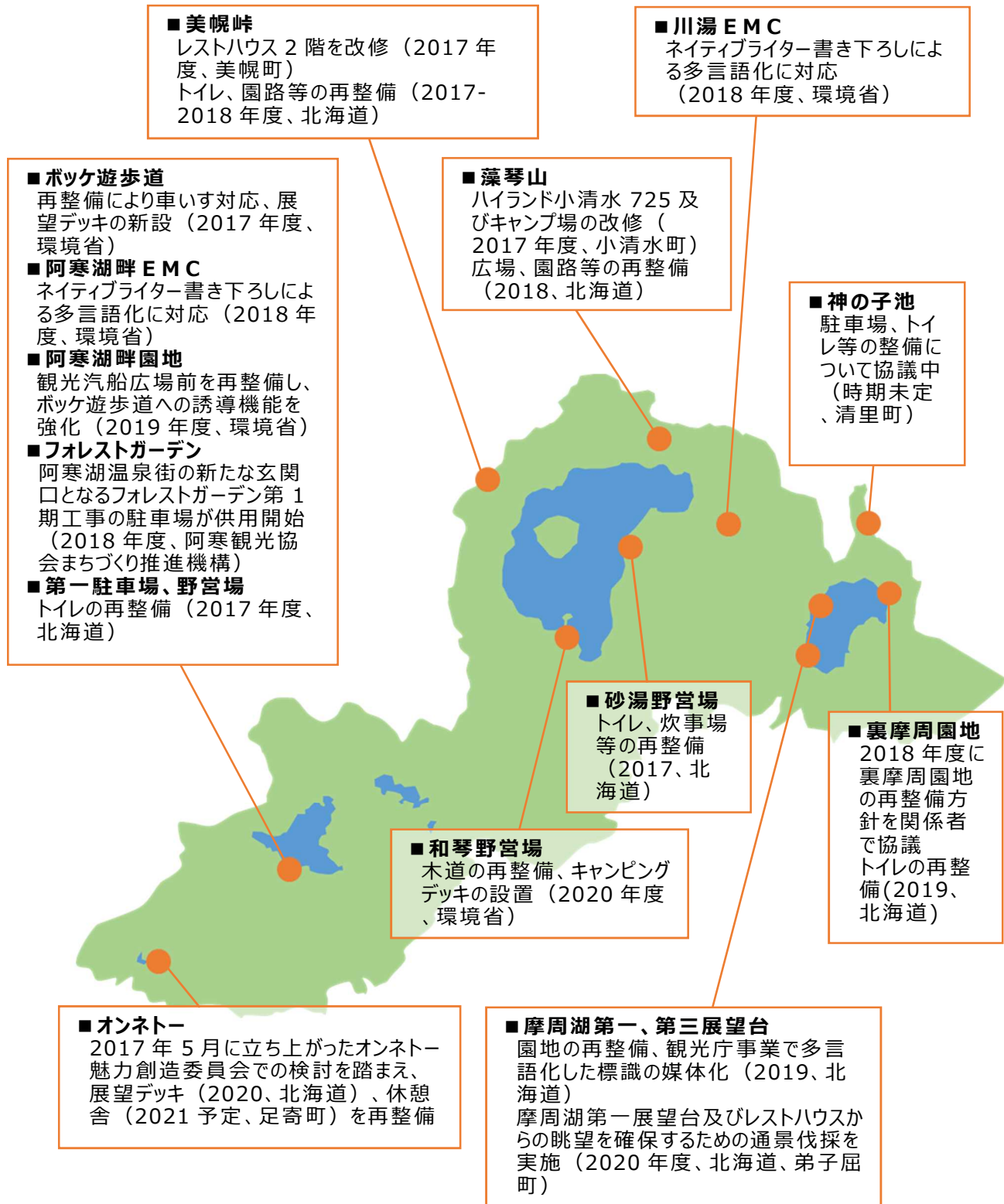
■公設野営場の民間活用（グランピング等）

- ・2018年、2019年に和琴野営場において、民間事業者と連携し、閑散期の有効活用方策の検討としてグランピングを試行
- ・環境省、北海道、弟子屈町で連携協定を締結し、2020年度より弟子屈町内の公設野営場を民間事業者により一括運営



4) 快適な公共空間の整備

多くの旅行者が利用する国立公園内のビジターセンター、園地、トイレ等の公共施設について、ストレスのない快適な利用が出来るよう再整備、多言語対応等を推進した。



（４）今後の課題

これまで満喫プロジェクトとして様々な取組を推進してきたが、世界水準の国立公園として更なる高みを目指すためには、以下の課題についてより一層取組を進める必要がある。

■ マイナスポイントの改善

これまでの取組により、施設整備や官民連携によるサービス向上が図られてきているが、放棄された廃屋、不要になった看板、残置された工作物、景観を阻害する電線などの人工物が、自然の風景を損なっている状況が未だに散見され、国立公園のすばらしい自然よりもがっかりしたマイナスポイントの方が強く印象に残ってしまうおそれがある。新たな施設整備等によるサービス向上も重要であるが、マイナスポイントを減らしていくことがより旅行者の満足度に影響を与えると考えられる。

これらの景観阻害要因は、所有者の確認などの権利関係の整理が必要であったり、撤去にあたり莫大な費用がかかったり、簡単には解決できない問題ではあるが、地域として一つ一つ改善に向けて取り組んでいくことが重要である。



（写真）放棄された廃屋



（写真）景観を阻害する電線

■ 二次・三次交通の充実

現在の北海道観光は道央圏に集中しており、特に訪日外国人では70%以上が道央圏に集中しており、釧路・根室圏にまで訪れる旅行者は2.3%にとどまっている。阿寒摩周国立公園に訪れる訪日外国人の移動分析によると、阿寒摩周国立公園への滞在前後に札幌市や千歳市に滞在している旅行者が多い。このため、阿寒摩周国立公園を含むひがし北海道エリアに利用者を増やすためには、札幌などの道央圏から誘導することが効率的と考えられる。一方で、鉄道・バスなどの公共交通機関による二次交通、三次交通でのアクセスがよくないため、交通手段はツアーバスやレンタカーに偏っているのが現状である。このため、民営化された道内7空港や隣接する中標津空港と連携しながら、公共交通によるアクセスの充実を図っていく必要がある。

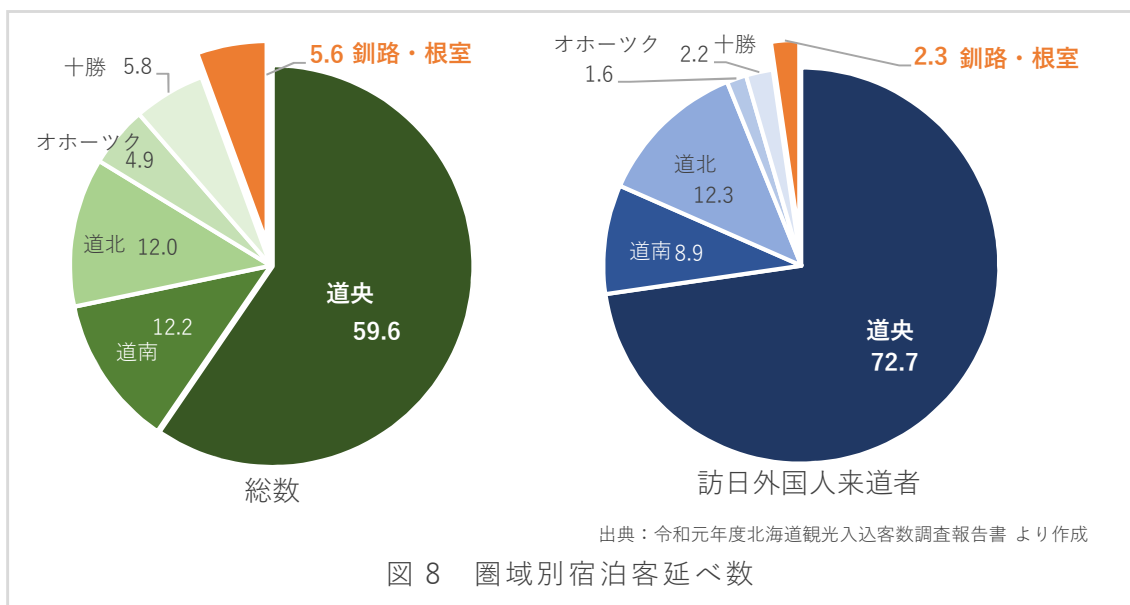


図8 圏域別宿泊客延べ数

■ ツアーオペレーターの育成

阿寒摩周国立公園では様々な事業者が魅力的なツアープログラム等を提供しており、阿寒湖温泉、川湯温泉などの利用拠点においては、多様な宿泊施設が充実している。一方で、土地勘の少ない訪日外国人にとっては、少ない外国語の情報の中から、移動手段も含めて一つのサービスを選択して、旅行の行程を組み立てることは非常に困難である。このため、阿寒摩周国立公園及び周辺地域の様々な事業者の情報を把握し、訪日外国人のニーズに合わせてトータルコーディネートができるツアーオペレーターの役割を担う体制や組織を育成していく必要がある。

また、ツアー全体に一貫したテーマやストーリーを持つことも重要で、個々の観光スポットを単純に巡るのではなく、全体テーマに基づいてそれぞれの場所になぜ連れて行くのか、そこで何を体験できるのかといった目的を明確にすることが重要である。

さらに、こうしたツアーを案内するためには、個別のアクティビティ等を提供する現地ガイドだけでなく、地域の自然や文化等の概要が説明でき、現地ガイドとつながりながら地域内での行程全体を案内できるコーディネーターの役割が求められる。

■ 高品質・高付加価値なサービスの提供

国立公園満喫プロジェクトでは、利用者数だけではなく、消費単価や体験の質の高さ・深さを掛け合わせた「体積」を大きくしていくという視点で取組を進めている。しっかりとしたルールに基づく、ツアープログラム参加者だけの限定的な体験を提供することなどにより、付加価値を高めていくことが重要である。このためには、これまで使われていなかった資源の活用や、新たな方法での利用についても、自然環境を保全しつつ持続可能な仕組みとすることを前提として、積極的に検討を進めていくことが必要である。

また、より上質なサービスを求める旅行者のニーズに対応できる宿泊施設についても、国立公園の大自然を活かしつつ、自然環境への負荷を抑えた立地を考慮して引き続き検討を進める必要がある。

■ 国立公園ブランドの訴求

国立公園満喫プロジェクトの推進を通じて、かつてないほど国立公園（ナショナルパーク）の観光地としてのプロモーションや情報発信を進めてきた。今後はさらに、国立公園を訪れる旅行者に対して、「ナショナルパーク」に行けば、日本国内で一級品の美しい風景や上質な自然体験が保証され、自然と共生する文化や暮らしを体感できるといったブランドイメージを高めていくことが必要である。このためには、まずサービスを提供する地域の事業者や住民に対して、「国立公園」が優れた自然を将来世代にわたって保護していくシステムであり、それにより旅行者へ上質な利用空間を提供し続けることができるという理解を広げていくことが重要である。地域の事業者や住民が、国立公園の自然により地域の産業や暮らしが成り立っていると認識するこ

とで、自ら率先して自然環境の保全と持続可能な利用を担っていくことが期待される。

また、旅行者が国立公園にいることを意識できるように、現在様々な主体により設置され、一体感のない看板・標識類のデザインを統一していくことも必要である。

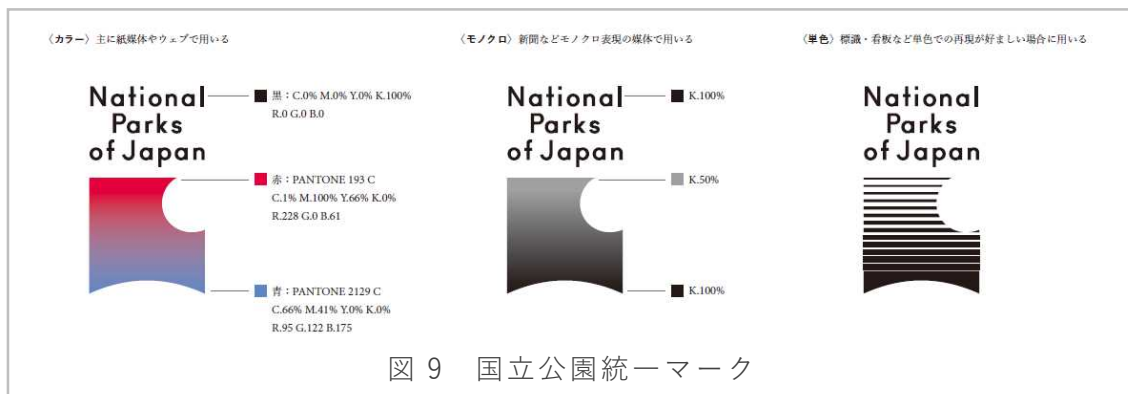


図9 国立公園統一マーク

■ 新型コロナウイルス感染症への対応（国内誘客、感染症対策、平準化等）

新型コロナウイルスの感染拡大により当面はインバウンドの回復が見込めない状況となったため、旅行消費額の約8割を占める国内旅行者について改めて誘客を図る必要がある。その際、従来型の観光旅行の推進だけでなく、ポストコロナ時代の新しい生活様式に対応した旅行形態についても対応を進める必要がある。また、引き続き感染症対策を徹底して旅行者に安心感を与えることで、リピーターの獲得に繋げていくことも重要である。

阿寒摩周国立公園の現在の利用者は、訪日外国人ではアジア圏に集中し、季節変化をみると、訪日外国人では冬、国内旅行では夏に利用者が集中している。新型コロナウイルスの感染拡大のような予想外のリスクに備えるためには、特定の地域や国からの旅行者に集中するのではなく、国内及び海外も含めてバランス良く集客を図っていくことが重要である。また、特定の季節に集中せずにピークを平準化することで、より安定的な観光地経営につながると考えられる。このため、オフシーズンの新たな魅力発見やサービス展開を図ることが重要である。

2. 基本方針

阿寒摩周国立公園におけるこれまでの取組及び課題を踏まえ、今後満喫プロジェクトを推進するにあたっての基本的な考え方、利用に関するコンセプト及び取組の方針等を以下のとおり設定する。

(1) 基本的な考え方

- ・ 国立公園満喫プロジェクトの推進により、阿寒摩周国立公園を世界水準のデスティネーションとしてブランド化していくことで、国立公園及び周辺地域における観光及びそれに関連する産業を活性化させ、地域住民が自分たちの地域に誇りを持ち、そこに住み続けたいと思うような豊かな暮らしができる持続可能な地域づくりを進める。
- ・ 国立公園の自然を将来にわたって保護し続けることを前提に、持続可能かつ国立公園の自然の付加価値を高める上質な方法で積極的に活用していくことで、地域住民がこれまで以上に自然を守ることの重要性を認識するような、保護と利用の好循環の仕組みづくりを進める。
- ・ 海外から多くの旅行者が訪れることで、この地域に根ざすアイヌ文化をはじめとする自然との共生の文化を世界に発信し、国立公園への観光を通じて持続可能な社会のあり方を示していく。

（２）利用推進の方向性

基本的な考え方を踏まえ、阿寒摩周国立公園が推進する利用の方向性及び具体的な楽しみ方のイメージを以下のとおり示す。

3つのカルデラと湖、 そして原生自然から感じとるカムイの存在

～阿寒摩周国立公園の楽しみ方～

- 世界唯一の球状マリモの群生地である阿寒湖、世界レベルの透明度を誇る摩周湖、世界最大規模のカルデラ湖である屈斜路湖、それらを包むように広がる深い森、今なお活発な火山の山々、そこに息づく動物たち、それらが織りなす原生的な自然の世界を存分に堪能する。
- 火山現象を間近に見ながら楽しめるトレッキング、「カムイの聖地」釧路川や湖でのカムイ、爽快地駆け抜けながら変化する景色を楽しむサイクリング、眺望のよい峠から雲海や星空を観察するツアー、湖畔や川辺でのバードウォッチングなど、ローインパクトなアクティビティを通じ、原生的な自然の雄大さや偉大さ、パワー、生きもののたくましさに直接ふれる。
- 眺望や居心地のよい宿泊施設、展望施設、カフェでの滞在、それぞれ特色の異なる温泉での保養、静寂な森の中でのグランピング、自然につつまれた環境でリラックスして働くワーケーションなど、優れた景観や大自然の魅力を実感しながらここでしか得られない上質な時間をゆっくりと過ごす。
- 我が国の先住民族であるアイヌ民族の伝統文化や思想にふれ、自然と共生する持続可能な社会のあり方を考える。

(3) 取組の方針

- ・ 2021（令和 3）年の ATWS 北海道開催とその後の展開を見据え、AT を主要なターゲットの一つと定め、AT のニーズに対応できるガイドツアーやサービスの充実を図る。
- ・ 世界的に SDGs への取組が求められ、旅行先の選択にあたって持続可能性が重視されていることを踏まえ、アイヌ文化をはじめとした世界に誇る自然との共生の文化を発信する拠点として、サステイナブルツーリズムの考えに基づく取組を推進する。
- ・ ウィズコロナ・ポストコロナの時代への対応を踏まえ、地域内観光などの国内誘客を強化するとともに、ワーケーションや多拠点居住などの新たなライフ＆ワークスタイルに対応した観光旅行以外の利用価値を提供する。
- ・ 自然環境の保全を前提としつつ、一定の制限の下での限定的な利用などにより、高品質・高付加価値な新たな国立公園の活用を積極的に進めることで、民間による新たな事業展開を促進する。
- ・ 新たな事業を進めるだけでなく、廃屋化して放置された施設、不要になった看板、電線等の景観を阻害する人工物を取り除く“引き算の景観改善”により旅行者の満足度を高める。
- ・ 阿寒摩周国立公園内だけでなく、周辺地域とも連携し、ひがし北海道エリアを意識した広域的な取組を推進する。

(4) ターゲット

1) 訪日外国人旅行

訪日外国人は現在アジア圏に集中していること、利用者数だけでなく消費額・宿泊数などを向上させる必要があることなどが、阿寒摩周国立公園の課題であることから、近年、欧米豪を中心に市場規模が急速に拡大しているアドベンチャートラベラーを主要なターゲットとする。ただし、予想できない様々なリスクを回避するためには多様な国や地域から観光客が訪れることが望ましく、2025（令和 7）年までの中期的な取組の中で注力すべきターゲットを示したものであり、現在訪日外国人の多くを占めるアジア圏についても、引き続き現在の利用者数を維持していくための取組は継続する必要がある。

AT では、旅行者の趣向に応じて、徹底的に冒険的な活動を求める「Adventure Intensive」、文化体験などにより新たな学びを求める「Cultural Explorer」、快適に様々なアクティビティを楽しむ「Experience Sampler」の3つのターゲットに分類している。阿寒摩周国立公園は、比較的アクセスがよく様々なタイプの自然が近距離で楽しめること、独特の世界観を持つアイヌ文化が根付いていることなどから、特に「Cultural Explorer」と「Experience Sampler」をターゲットとしてコンテンツの充実やプロモーションを実施することが効果的である。（表 2）

表 2 AT の 3 つのターゲット分類

Adventure Intensive	Cultural Explorer	Experience Sampler
自分の限界に挑戦するような冒険的な体験を求め、そのためにはある程度の不便さも許容するグループ	文化体験や新しい知識に最も関心があり、自然や風景を楽しみながら旅行に学びを求めるグループ	新しい学びや経験を求め、様々なタイプのアクティビティを体験しながら快適に旅を楽しむグループ
		

2) 国内旅行

旅行者の8割以上を占める国内旅行についても重要であり、特に地域内の利用客に国立公園の資源が再発見され、近隣から何度も繰り返し訪れてくれるリピーターを増やすことで、安定的な集客につながると期待される。

また、オフィスに縛られづらい業種の民間企業等をターゲットとして、ワーケーションなどの新たな利用を推進し、国立公園の新たな利用価値を提供する。

3. 目標

上記の基本方針を踏まえつつ、2025（令和 7）年までの当面の目標として、容易に計測可能、かつ、取組の推進によって改善可能と考えられる数値目標を以下のとおり設定する。

- ・ステップアッププログラムでは、2020（令和 2）年に阿寒摩周国立公園関係市町訪日外国人延べ宿泊者数を 31 万人とすることを目標としていたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて目標達成ができなかったことから、引き続き目標値を維持しつつ 2025（令和 7）年までのできるだけ早期に目標を達成することとする。（目標 1）
- ・訪日外国人の需要回復に時間がかかることを踏まえると、地域の観光産業を維持していくためには国内需要をしっかりと維持していくことも重要であることから、国内旅行者についても 2019（令和元）年度の水準を引き続き維持しつつ、近隣地域からのリピーターを増加させていく。（目標 2、3）
- ・滞在日数が増えることで地域内での消費額も増加すると考えられるため、阿寒摩周国立公園での連泊での利用者数を増やしていく。（目標 4）
- ・予測不可能なリスクに対応し、安定的な観光地として将来にわたって持続していくため、様々な国・地域からバランス良く集客を図るとともに、繁閑差を解消していく。（目標 5、6）
- ・阿寒摩周国立公園の周辺地域への波及効果を高めていくことも重要であることから、周辺地域の主要施設の利用者数等を増加させていく。（目標 7）

目標 1 関係市町訪日外国人宿泊客延べ数：31 万人

目標 2 関係市町（釧路市は旧阿寒町のみ）宿泊客延べ数：80 万人

目標 3 国内旅行者リピーター率（10 回以上）：25%

目標 4 連泊利用者数：15 万人以上

目標 5 訪日外国人国別割合（欧米豪比率）：10%

目標 6 季節繁閑差（最多月宿泊数／最小月宿泊数）：2 倍以下

目標 7 阿寒摩周国立公園内外の主要施設の利用実績：増加

表 3 2019（令和元）年度市町村別宿泊者数

		釧路市			標茶町	弟子屈町	白糠町	足寄町
			旧阿寒町					
訪日外国人宿泊客延数（人泊）		140,046	97,882		60	25,775	38	417
（内訳）	アジア	118,790	86,606		41	20,893	25	186
	欧米豪	9,018	3,632		7	2,871	2	159
	その他	12,238	7,644		12	2,011	11	72
宿泊客延数（人泊）		1,476,600	525,500		20,600	211,200	10,100	22,200
		美幌町	津別町		清里町	小清水町	大空町	中標津町
訪日外国人宿泊客延数（人泊）		83	324		1,128	0	57	2,662
（内訳）	アジア	42	206		820	0	0	1,742
	欧米豪	32	69		164	0	52	662
	その他	9	49		144	0	5	258
宿泊客延数（人泊）		17,100	11,800		19,700	4,600	16,200	63,200
11 市町合計					11 市町合計 （釧路市は旧阿寒町のみ）			
訪日外国人宿泊客延数（人泊）[b]		170,590（①）			128,426			
（内訳）	アジア	142,745		83.7%	110,561		86.1%	
	欧米豪	13,036		7.6%（⑤）	7,650		6.0%	
	その他	14,809		8.7%	10,215		8.0%	
宿泊客延数（人泊）[a]		1,873,300			922,200			
国内宿泊客延数（人泊）[a-b]		1,702,710			793,774（②）			
宿泊客実数（人）[c]		1,672,400			844,600			
連泊利用者数※（人）[a-c]		200,900			77,600（④）			
平均宿泊数（泊）[a/c]		1.12			1.09			

※それぞれの市町内での連泊数であり、連泊日数は 2 泊として計算

出典：北海道観光統計及び釧路振興局観光入込客数より

表 1（再掲） 阿寒摩周国立公園訪問者の旅行の質に関する指標

	阿寒摩周		8 公園平均		
	外国人	日本人	外国人	日本人	
満足度（大変満足）	48.1	32.4	43.9	34.7	（％）
支出額	68,633	19,382	65,046	27,866	（円）
宿泊数（公園内）	1.6	1.2	1.4	1.1	（泊）
（公園周辺含）	3.6	2.1	3.4	1.9	（泊）
リピーター率（2 回以上）	13.6	63.9	13.7	57.8	（％）
（10 回以上）	0.7	19.2（③）	1.0	11.1	（％）

出典：令和元年度「国立公園満喫プロジェクト」推進業務の結果より

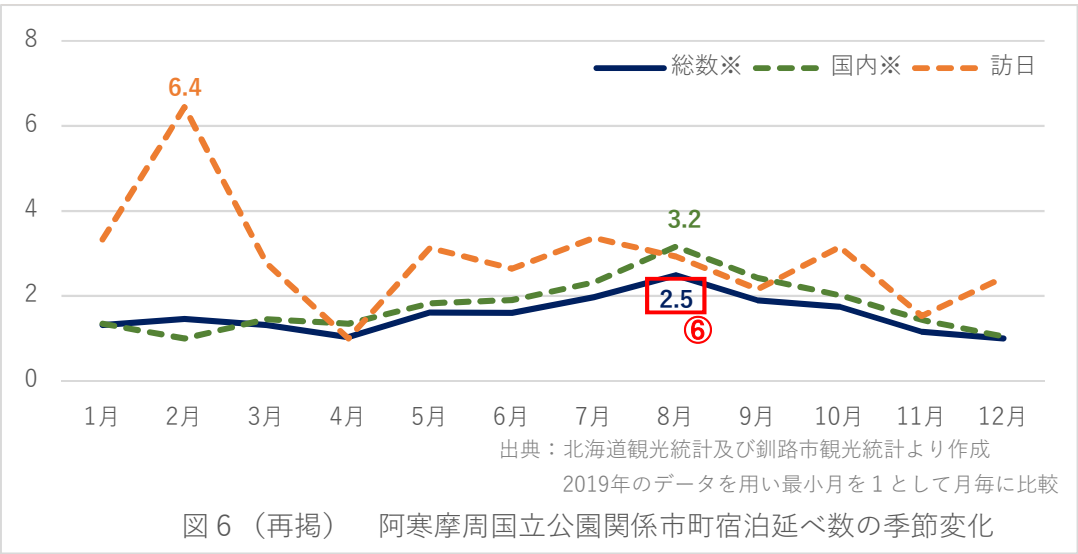


表 4 阿寒摩周国立公園内外主要施設等の利用実績

施設名	市町	利用実績の 種類	実績値	年次	備考
(国立公園内主要施設)					
阿寒湖畔エコミュージアムセンター	釧路市	利用者数	54,729 人	2019 年度	
阿寒湖アイヌシアター「イコロ」	釧路市	利用者数	54,664 人	2019 年度	
マリモ展示観察センター	釧路市	利用者数	89,954 人	2019 年度	
川湯エコミュージアムセンター	弟子屈町	利用者数	17,574 人	2019 年度	
摩周湖レストハウス	弟子屈町	利用者数	643,854 人	2019 年度	駐車台数を 基に算出
硫黄山レストハウス	弟子屈町	利用者数	220,736 人	2019 年度	駐車台数を 基に算出
ハイランド小清水	小清水町	利用者数	3,197 人	2019 年度	
(道の駅)					
道の駅 阿寒丹頂の里	釧路市	利用者数	412,825 人	2019 年度	
道の駅 摩周温泉	弟子屈町	利用者数	292,491 人	2019 年度	交流館、ト イレ棟、直 売所のうち 最も多い数 値
道の駅 しらぬか恋問	白糠町	利用者数	576,814 人	2019 年度	
道の駅 あしょろ銀河ホール 21	足寄町	利用者数	247,144 人	2019 年度	
道の駅 ぐるっとパノラマ美幌峠	美幌町	利用者数	550,982 人	2019 年度	
道の駅 あいおい	津別町	利用者数	147,963 人	2019 年度	
道の駅 パパスランドさつつる	清里町	利用者数	208,690 人	2019 年度	
道の駅 葉菜野花小清水	小清水町	利用者数	311,299 人	2019 年度	トイレ・レ ストラン・ 土産店の合 計
道の駅 メルヘンの丘 めまんべ つ	大空町	利用者数	435,945 人	2019 年度	ショップ、 トイレの合 計
道の駅 ノンキーランド ひがし もこと	大空町	利用者数	327,870 人	2019 年度	レストラ ン、ショッ プ、ホテル 、トイレ の合計

表 4（続き） 阿寒摩周国立公園内外主要施設等の利用実績

施設名	市町	利用実績の 種類	実績値	年次	備考
（公設キャンプ場）					
阿寒湖畔キャンプ場	釧路市	宿泊者数	3,490 人	2019 年度	
オンネトー国設野営場	足寄町	宿泊者数	1,889 人	2019 年度	
和琴野営場（RECAMP 和琴）	弟子屈町	宿泊者数	1,635 人	2019 年度	
砂湯野営場（RECAMP 砂湯）	弟子屈町	宿泊者数	5,535 人	2019 年度	
桜ヶ丘キャンプ場（RECAMP 摩周）	弟子屈町	宿泊者数	1,851 人	2019 年度	
ハイランド小清水キャンプ場	小清水町	宿泊者数	249 人	2019 年度	
（その他の主要観光施設）					
津別峠展望施設	津別町	入込数	93,215 人	2019 年度	
ノンの森ネイチャーセンター	津別町	入込数	15,237 人	2019 年度	
多和平	標茶町	利用者数	18,612 人	2019 年度	
開陽台	中標津町	利用者数	113,696 人	2019 年度	

4. 行動計画

(1) 重点的な取組

1) ウィズコロナ・ポストコロナ時代への対応

新型コロナ感染拡大の影響を受け、観光業界は甚大な影響を受けているが、国立公園の利用を担うツアーや宿泊等の事業者なくしては、地域の暮らしは成り立たないため、雇用の維持や人材育成を優先課題として進める。

当面はインバウンドの回復が見込めないため、国内誘客を強化し、地域の資源として地域の利用客に再発見されることを目指し、地域内観光の受け皿として国立公園の価値を再構築していく。密を避けられる感染リスクの低い自然の中で、さらに、地域で連携しながら感染症対策を徹底することにより、安全・安心な観光地としてのイメージを定着させ、リピーターの獲得に繋げていく。

また、国立公園の豊かな自然環境の中に身をおくことで、気持ちがリフレッシュできて仕事の生産性が向上したり、クリエイティブな発想が生まれたり、ワーケーションやリモートオフィスなど従来の観光旅行以外の利用も注目されている。こうしたライフ&ワークスタイルの転換を踏まえ、長期的には「国立公園へ行こう」から「国立公園で暮らそう」というような、多拠点居住や移住も視野に入れた、国立公園の新たな価値を発信する。

該当する主な施策

- KA-1 川湯温泉の再生及び新たな魅力のブランド化（弟子屈町、環境省、摩周湖観光協会、川湯地域運営協会）
- KU-1 屈斜路湖の魅力を引き出す高付加価値で新たな利活用（弟子屈町、北海道（釧路総合振興局）、環境省、林野庁（根釧西部森林管理署）、摩周湖観光協会）
- NP-2 プロモーションおよび効果的な情報発信の実施（環境省）

2) ひがし北海道における AT の推進

主要なターゲットである AT 旅行者のニーズにあったコンテンツの開発、施設整備、情報発信、人材育成等を関係者の連携の下に総合的に推進する。

また、海外から北海道に訪れる旅行者は、阿寒摩周国立公園内だけでなく周辺も含めて広域に移動していると考えられるため、知床国立公園、釧路湿原国立公園など周辺の国立・国定公園やバードウォッチング等の野生生物を活用したコンテンツなども含めて連携していくことが重要である。このため、ひがし北海道の中心に位置する阿寒摩周国立公園においては、周辺地域も含めた旅行の情報の提供、二次交通などでの快適なアクセスの確保などにより、このエリアで AT を満喫する際のハブ機能を果たしていく。

また、FAM トリップを企画する際に阿寒摩周国立公園を中心として周辺の国立・国定公園等も含めて行程を検討するなど、周辺自治体との連携を進めていく。

該当する主な施策

AK-4 阿寒湖畔 EMC のインバウンド対応機能強化（環境省）

AK-11 阿寒湖における AT の推進（阿寒観光協会まちづくり推進機構、釧路市）

KA-2 川湯 EMC のインバウンド対応機能強化（環境省）

BA-6 アドベンチャートラベルの推進（国土交通省北海道運輸局、環境省、経済産業省北海道経済産業局、北海道）

3) 官民連携による利用拠点の再生

全国の国立公園において、過去に団体旅行に依存した大規模施設等が、個人旅行など現在のニーズに合わせた設備更新への投資や適正規模への投資ができないまま老朽化が進み、休廃業に追い込まれる宿泊施設等が後を絶たない。こうした施設が廃屋として放置されることは、旅行者に衰退した観光地の印象を与え、地域の魅力や活力を失わせる。特に自然の風景そのものが価値である国立公園においては、廃屋によりその価値が損なわれることは深刻な問題である。こうした問題を受け、環境省では 2018（平成 30）年 9 月に「国立公園の宿舎事業のあり方について」を

とりまとめ、新たな民間投資の誘致も含め官民連携により廃屋の撤去や無電柱化、景観デザインの統一等の面的再整備に取り組むことの重要性が示された。

阿寒摩周国立公園においても、廃屋の撤去、無電柱化の推進、統一デザインの導入によるまちなみ景観の改善等による地域づくりのビジョンを示したマスタープランを作成することなどにより、新たな民間投資を呼び込み、官民連携による面的な再整備を進めていく。

また、川湯エコミュージアムセンターへの民間カフェ導入のように公共施設等の民間開放を進めることにより、官民連携でのサービスの向上にも積極的に取り組む。

該当する主な施策

- AK-1 阿寒湖温泉街のまちなみ景観改善及び快適な利用空間の整備
(釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構、阿寒湖温泉地区景観協議会、環境省)
- ON-1 オンネトー国設野営場休憩舎整備(足寄町、あしよろ観光協会、環境省、林野庁(十勝東部森林管理署))
- KA-1 川湯温泉の再生及び新たな魅力のブランド化(弟子屈町、環境省、摩周湖観光協会、川湯地域運営協会)
- KA-4 摩周湖第一展望台及び硫黄山レストハウスのリニューアル(弟子屈町、REVIC、北海道、環境省、自然公園財団川湯支部)

4) 阿寒摩周国立公園トレイルネットワークの形成

ATなどの欧米豪の旅行者は、自然の中を長距離歩いて楽しむというスタイルの旅行を好む傾向がある。国立公園内のトレイルを充実させていくことで、長期に滞在しながらゆっくりと国立公園の自然を満喫する、欧米豪の旅行スタイルに対応することができる。このため、まずは、国立公園内の既存のトレイルについて、見所や所要時間、レベル、入口までのアクセスなどを示したマップにより情報発信を行うとともに、「トレイルガイドライン」に基づき、統一感のある道標整備を段階的に進めることで、国立公園の歩道としての一体感や利用者の安心感を高めていく。

また、「トレイルネットワーク構想」に基づき、阿寒摩周国立公園内の

トレイルをネットワークとしてつないでいくとともに、将来的にはひがし北海道の3空港（釧路、女満別、中標津）間を歩けるロングトレイルとしてつなげていくことを目指す。トレイルのセクション毎の宿泊拠点の整備や自転車、カヌー等での接続、二次交通との連携なども進める。

該当する主な施策

- KA-5 摩周・屈斜路トレイル（MKT）ルート of 拡充と利用推進（弟子屈町、環境省、摩周湖観光協会、地域事業者、林野庁（根釧西部森林管理署）、北海道（釧路総合振興局）
- KU-2 屈斜路カルデラ外輪山トレイルルート整備調査事業（美幌地区三町広域観光協議会、環境省、林野庁（網走南部森林管理署、根釧西部森林管理署））
- BA-3 ひがし北海道3空港をつなぐロングトレイルの推進（環境省、林野庁（関係森林管理署）、国土交通省北海道運輸局、関係自治体、観光協会）

5）自然の付加価値を高める新たな利活用

国立公園は優れた自然の保護と利用の両方を目的としており、自然環境の保護を前提としつつ、持続可能な方法で利用し、地域の活性化に貢献していくことが求められている。阿寒摩周国立公園では、2020（令和2）年までの満喫プロジェクトにおいて、阿寒湖でのカムイルミナ、川湯の森ナイトミュージアム、アトサヌプリトレッキングツアーなど、これまで未利用だったエリアや方法について、新たな利用に積極的に取り組んできた。

引き続きマリモ学習ツアー、屈斜路湖中島の活用、トレイルのマウンテンバイク利用など、国立公園の資源の新たな活用について、一定の制限の下での限定的な体験とすることで持続可能かつ高付加価値なサービスとなるよう検討を進める。

該当する主な施策

- AK-2 阿寒湖の自然を体験的に学ぶプログラムの開発（阿寒観光協会まちづくり推進機構、環境省、前田一歩園財団）
- AK-3 アイヌ文化のブランディングとプロモーションの実施（阿寒観

	光協会まちづくり推進機構、阿寒アイヌ工芸協同組合)
MA-3	裏摩周展望台-神の子池トレイルルートにおけるツアー・プログラムの開発及びガイド付ツアーの確立（きよさと観光協会、清里町）
KU-1	屈斜路湖の魅力を引き出す高付加価値で新たな利活用（弟子屈町、北海道（釧路総合振興局）、環境省、林野庁（根釧西部森林管理署）、摩周湖観光協会）

6) 利用者目線での簡易な改善への早急な対応

調整や工事等に時間のかかる大きな施設整備だけでなく、看板の多言語化や景色のよい場所でのベンチの設置、利用動線の明確化など、利用者目線に立てば誰でも分かる不満の解消を現場でしっかりと考えて、早急に対策を行うことが重要である。多言語化についてはネイティブライターによる書下ろしとすることなどにより、外国人目線で興味関心のあつた内容を適切な表現で書いた質の高い解説を充実させていく。

また、旅行者が国立公園にいることを意識できるように、阿寒摩周国立公園への入口標識を充実させるとともに、道路沿いの景観改善を図り、各主体で設置する看板・標識類のデザインを統一していくことで、国立公園としてのブランド化を図る。

利用者目線での基本的な施設の簡易な改善については、主要な利用施設の対応状況について進捗状況を把握しながら、各主体において着実に進めていく。

該当する主な施策	
AK-12	自然体験拠点施設等の魅力向上（釧路市）
ON-2	オンネトー湯の滝園地の再整備（北海道（十勝総合振興局）、環境省、足寄町、オンネトー魅力創造委員会）
MA-2	神の子池周辺の整備について（清里町）
MA-4	摩周湖第一園地の施設充実化（北海道（釧路総合振興局）、環境省、弟子屈町、林野庁（根釧西部森林管理署））
NP-1	看板・標識類のデザイン統一及び多言語化によるブランド力の向上（環境省、関係自治体、林野庁（関係森林管理署）、国土交通省北海道運輸局、広域観光協議会）

BA-1 「秀逸な道」による道路景観の確保（国土交通省北海道開発局、関係自治体）

7) 持続可能な観光の推進

本ステップアッププログラムでターゲットとする AT に参加する旅行者はサステナビリティへの意識が高く、自分たちが楽しむフィールドが持続可能な方法で管理されていることだけでなく、提供されるサービスが脱炭素であることや、プラスチックゴミを排出しないことなどが求められる。国際的に SDGs 達成に向けた気運が高まっており、消費者の行動もより持続可能な商品やサービスを選択するよう変化してきている。

こうした社会の新たな流れに対応する必要がある、また、我が国を代表する優れた自然環境を有する国立公園という地域であることから、率先して持続可能な観光の実現の取り組みを進めることが重要である。

このため、観光分野での SDGs 達成への寄与を目指した、持続可能な観光に関する国際的な認証プログラムである GSTC (Global Sustainable Tourism Council) の基準に準拠した取り組みを推進する。また、国立公園内で暮らす住民や事業者に対し、豊かな自然環境を基盤として自らの生活や事業が成り立っていることについて理解を促し、将来世代にわたり持続的に活用していくための仕組みづくりを進める。

国立公園内の利用施設や交通等における再生可能エネルギーの活用、EV の導入等により脱炭素化を推進するとともに、リユース容器の活用や公共施設による提供商品の見直し等を通じてプラスチックゴミの削減を推進する。

該当する主な施策

NP-3 脱炭素化及びプラスチックゴミの削減等の推進・支援（環境省、自然公園財団川湯支部、自然公園財団阿寒湖支部）

BA-4 阿寒摩周国立公園におけるインナーブランディングの推進（環境省、広域観光協議会）

（２）個別の取組

基本方針を踏まえ、別表に記載した取組を進める。具体的な取組内容は取組個票を参照。個票に記載したエリアの分け方は以下のとおり。

エリア名称	範囲・特徴
阿寒湖	阿寒湖を中心とする周辺の山岳及び森林や温泉街からなるエリア
オンネトー・雌阿寒岳	オンネトー及び雌阿寒岳を中心とする国立公園の西端のエリア
川湯温泉・硫黄山	川湯温泉及びその源泉となる硫黄山を中心とする火山と温泉街からなるエリア
摩周湖	摩周湖を中心とした外輪山の展望台等や神の子池を含むエリア
屈斜路湖	屈斜路湖畔及び屈斜路カルデラ外輪山からなるエリア
阿寒摩周国立公園全体	阿寒摩周国立公園の区域内全体のエリア
公園区域外も含む広域	阿寒摩周公園全体及び周辺市町村、他の国立公園などの公園区域外も含む広域のエリア

５．効果検証及び取組の改善

（１）進捗状況の確認

目標として設定した数値については、各種統計等により毎年数値を把握し、取組の効果を把握する。

また、阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会を定期的に開催し、ステップアッププログラムにおける各取組個票に基づき進捗状況を把握し、それらの効果の検証を行う。

（２）取組へのフィードバック

定期的な進捗確認を行い取組の効果を検証するとともに、必要に応じてステップアッププログラムを随時見直して、新たな取り組みの追加や変更等の改善を行う。

■ステップアッププログラム2025(案)別表

エリアコード

AK 阿寒湖
ON オンネトー・雌阿寒岳
KA 川湯温泉・硫黄山
MA 摩周湖
KU 屈斜路湖
NP 阿寒摩周NP全体
BA 広域

重点取組

- 1) ウイズコロナ
2) ひがし北海道AT
3) 官民連携
4) トレイルネットワーク
5) 新たな利活用
6) 利用者目線
7) 持続可能な観光

仮番号	個票番号	エリア	取組名称	取組主体		重点取組							SUP2020 関連番号
				取りまとめ		1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	
1	AK-1	AK	阿寒湖温泉街のまちなみ景観改善及び快適な利用空間の整備	釧路市	阿寒観光協会まちづくり推進機構、阿寒湖温泉地区景観協議会、環境省			○			○		C7、C15
3	AK-2	AK	阿寒湖の自然を体験的に学ぶプログラムの開発	阿寒観光協会まちづくり推進機構	環境省、前田一歩園財団					○			C3、C4、C17
5	AK-3	AK	アイヌ文化のブランディングとプロモーションの実施	阿寒観光協会まちづくり推進機構	阿寒アイヌ芸協同組合					○			C5、H4
6	AK-4	AK	阿寒湖畔EMCのインバウンド対応機能強化	環境省			○					○	C1
7	AK-5	AK	阿寒湖畔沿いの歩道の整備及び利活用	環境省	釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構				○				C8、C10
9	AK-6	AK	阿寒湖フォレストガーデン整備	阿寒観光協会まちづくり推進機構	釧路市			○					C14
10	AK-7	AK	阿寒湖畔スキー場の利活用最大化	阿寒観光協会まちづくり推進機構			○						C16
12	AK-8	AK	阿寒湖まりむ館の観光案内所における外国人利用者への観光情報提供サービスの充実	釧路市	阿寒観光協会まちづくり推進機構						○		C20
13	AK-9	AK	阿寒湖と周辺湖沼群の世界自然遺産認定に向けた活動の推進	釧路市	釧路国際ウェットランドセンター阿寒湖沼群マリモ研究室								C21
14	AK-10	AK	阿寒湖温泉街清掃および駐車場の修繕	自然公園財団 阿寒湖支部							○		C6
15	AK-11	AK	阿寒湖におけるAT(アドベンチャーツーリズム)の推進	阿寒観光協会まちづくり推進機構	釧路市		○						C2
8	AK-12	AK	自然体験拠点施設等の魅力向上	釧路市							○		
16	ON-1	ON	オンネトー国設野営場休憩舎整備	足寄町	NPOあしよろ観光協会、環境省、林野庁			○	○				D1、D2、D4、D7、D8
17	ON-2	ON	オンネトー湯の滝園地の再整備	北海道(十勝総合振興局)	環境省、足寄町、オンネトー魅力創造委員会						○		
18	ON-3	ON	オンネトー・雌阿寒岳の維持管理体制の構築	環境省	林野庁、北海道、足寄町、釧路市				○				D1、D3、D5、D7
19	KA-1	KA	川湯温泉の再生及び新たな魅力のブランド化	弟子屈町	環境省、摩周湖観光協会、川湯地域運営協会	○		○					E6、E7、E8
20	KA-2	KA	川湯EMCのインバウンド対応機能強化	環境省			○	○					E1
21	KA-3	KA、MA	町民への駐車場無料開放	自然公園財団 川湯支部								○	E5、F7
22	KA-4	KA、MA	摩周湖第一展望台及び硫黄山レストハウスのリニューアル	弟子屈町	北海道、環境省、自然公園財団川湯支部			○	○				F1、F9
43	KA-5	KA、MA、KU	摩周・屈斜路トレイル(MKT)ルートの拡充と利用推進	弟子屈町	環境省、摩周湖観光協会、地域事業者、林野庁、北海道				○				E4、G5
	KA-6	KA、MA、KU	持続可能な観光の国際基準を活用した地域づくり	弟子屈町								○	
	KA-7	KA	川湯温泉におけるナイトタイム活用の推進	摩周湖観光協会	川湯地域運営協会、地域事業者、弟子屈町、環境省					○			
23	MA-1	MA	裏摩周園地内休憩所の再整備について	清里町				○					F9
24	MA-2	MA	神の子池周辺の整備について	清里町							○		F12
26	MA-3	MA	裏摩周展望台 神の子池トレイルルートにおけるツアー・プログラムの開発及びガイド付ツアーの確立	きよさと観光協会	清里町				○	○			F4
27	MA-4	MA	摩周第一園地の施設充実化	北海道(釧路総合振興局)	環境省、弟子屈町、林野庁						○		F9
28	MA-5	MA	摩周湖外輪山トレイルの整備	環境省	弟子屈町、標茶町、清里町、中標津町、林野庁				○				F9、F11
29	KU-1	KU	屈斜路湖の魅力を引き出す高付加価値で新たな利活用	弟子屈町	北海道、環境省、林野庁、摩周湖観光協会	○		○		○			G3、G5
30	KU-2	KU	屈斜路カルデラ外輪山トレイルルート整備調査事業	美幌地区三町広域観光協議会	環境省、林野庁				○				G6
31	KU-3	KU	和琴集団施設地区の再整備	環境省		○		○			○		G9、G10
	KU-4	KU	津別峠展望施設展望スペースの拡張	津別町	弟子屈町、観光協会(津別町・弟子屈町)、観光事業者(津別町、弟子屈町)	○			○				
32	NP-1	NP	看板・標識類のデザイン統一及び多言語化によるブランド力の向上	環境省	関係自治体、林野庁、国土交通省北海道運輸局、広域観光協議会						○		B2、B4
33	NP-2	NP	プロモーションおよび効果的な情報発信の実施	環境省		○	○						H1、H2、H3、H4
44	NP-3	NP	脱炭素化及びプラスチックゴミの削減等の推進・支援	環境省	自然公園財団川湯支部・阿寒湖支部							○	
38	BA-1	BA	「秀逸な道」による道路景観の確保	国土交通省北海道開発局	関係自治体						○		A8
39	BA-2	BA	二次交通のシームレス化	国土交通省北海道運輸局			○						A6、A7
40	BA-3	BA	ひがし北海道3空港をつなぐロングトレイルの推進	環境省	林野庁、国土交通省北海道運輸局、関係自治体、観光協会				○				B3
34	BA-4	BA	阿寒摩周国立公園におけるインナーブランディングの推進	環境省	広域観光協議会							○	
35	BA-5	BA	国立公園へのアクセスルート上での情報発信の強化	環境省							○		A1、A2、A3
37	BA-6	BA	アドベンチャートラベルの推進	国土交通省北海道運輸局	環境省、経済産業省北海道経済産業局、北海道		○			○			H4
42	BA-7	BA	阿寒摩周国立公園広域観光協議会による1市10町の機能強化	広域観光協議会		○					○		

<取組個票>

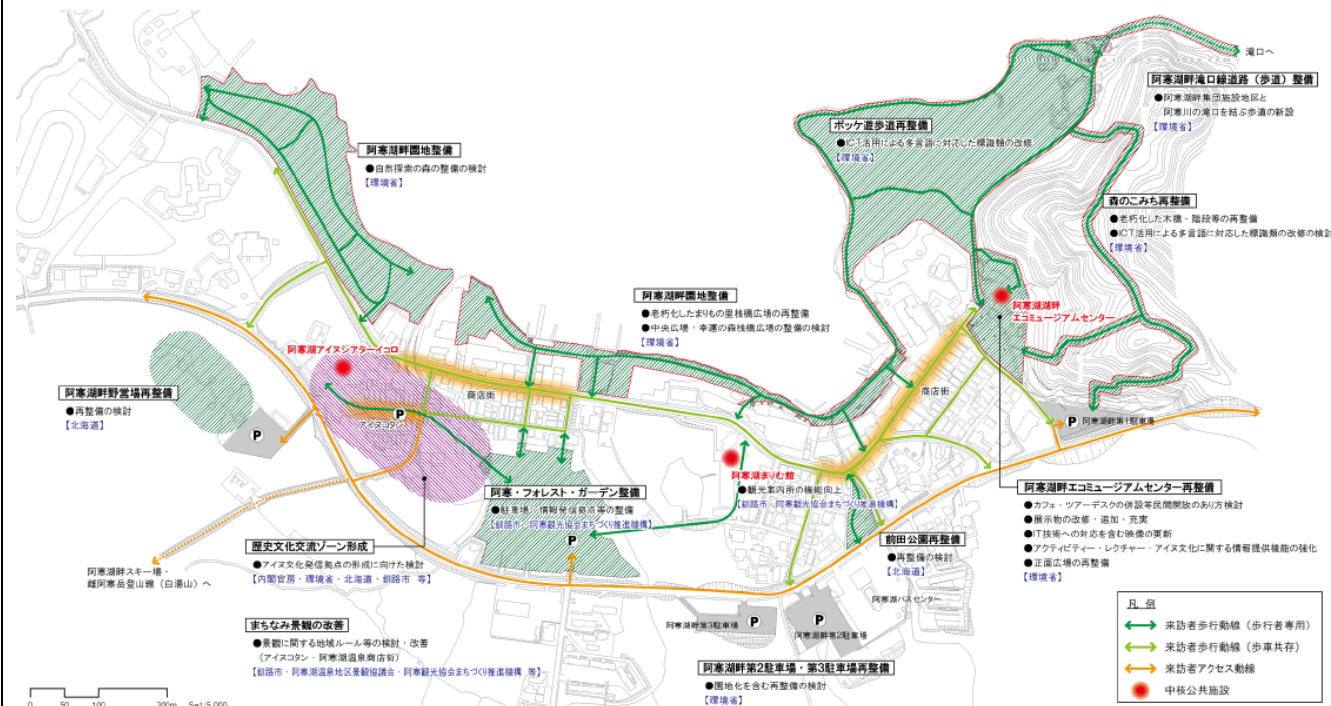
取組名称	阿寒湖温泉街のまちなみ景観改善及び快適な利用空間の整備				番号	AK-1
取組主体	釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構、阿寒湖温泉地区景観協議会、環境省					
SUP2020 との関連		新規・継続		関連施策の番号 C7、C15		
・まちなみ改善に対して、観光振興臨時基金を活用した支援を実施中。（釧路市） ・阿寒湖温泉地区景観協議会において、温泉街の景観改善（サイン、看板、ベンチ等の再塗装）を実施した。（阿寒湖温泉地区景観協議会） ・「アイヌ文化を活かした景観デザインの手引き」を策定し、同手引きに戻る景観改善を実施 ・阿寒湖畔園地のマリモの里桟橋前広場を再整備（環境省） ・2020 年度にオンネチセ改修（阿寒アイヌ工芸協同組合）						
取組内容						
・アイヌ文化・技術の伝承施設の検討（釧路市） ・阿寒観光協会が取り組むまちなみ景観改善に対して、観光振興臨時基金を活用した支援を実施していく。（釧路市） ・フォレストガーデンを入口としてアイヌコタン及び湖畔までの導線を中心に建物外観の修景や園地整備等により阿寒湖温泉街の景観改善を進める。（阿寒観光協会まちづくり推進機構、環境省） ・温泉街の景観改善（サイン、看板、ベンチ等の再塗装）を実施する。（阿寒湖温泉地区景観協議会）（具体的な取り組みは別紙参照）						
エリア	阿寒湖	オンネトー・雌阿寒岳	川湯温泉・硫黄山	摩周湖	屈斜路湖	
	阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光					
目標						
・2021 年に阿寒湖温泉の景観改善の方針を検討し、それを踏まえた阿寒湖畔集団施設地区整備基本計画を策定する。 ・中央広場については 2023 年までに整備する						
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）	
スケジュール	景観改善の方針検討	景観改善の実施（外観修景）				
	整備基本計画策定					
	中央広場調整	中央広場設計	中央広場整備			
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						
観光振興臨時基金（釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構）、直轄予算（環境省）、国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）、アイヌ政策推進交付金（内閣府）						

(別紙)

＜具体的な取り組み＞

- ・地域との合意形成の下、阿寒地域の利用拠点としてふさわしい阿寒湖温泉街の景観改善方策等を検討する（阿寒観光協会まちづくり推進機構、環境省）
- ・上記の検討を踏まえて、阿寒湖温泉街の外観修景等の景観改善を進める（阿寒観光協会まちづくり推進機構、環境省）
- ・旧阿寒湖温泉除雪ステーションをアイヌ文化・技術の伝承施設として整備していくことについて関係者と調整を行う（釧路市）
- ・フォレストガーデンからアイヌコタンまでの良好な景観の導線を整備する（阿寒観光協会まちづくり推進機構）
- ・阿寒湖温泉街の景観改善の取組と連携し、阿寒湖畔集団施設地区全体の再整備計画を策定し、阿寒湖畔へのメインのアクセスポイントとなる中央広場の整備を行う（環境省、阿寒観光協会まちづくり推進機構）

(参考) 阿寒湖畔集団施設地区整備構想 (平成 29 年度)



<取組個票>

取組名称	阿寒湖の自然を体験的に学ぶプログラムの開発				番号	AK-2
取組主体	阿寒観光協会まちづくり推進機構、環境省、前田一步園財団					
SUP2020 との関連		新規・継続		関連施策の番号	C3, C4,C17	
・2017（平成 29）年に「マリモの保護及び活用に関するプロジェクトチーム」を立ち上げ、「マリモの保護と活用を推進するための活動方針」を策定（環境省） ・活動方針に基づき、マリモを観察するガイドツアー実現可能性を検討（阿寒観光協会まちづくり推進機構） ・上記の検討に基づき、かつてマリモが生育していたシュリコマベツ湾での生育地再生プログラムを検討						
取組内容						
・アドベンチャートラベルの旅行者やワーケーション滞在者などのニーズに合わせて、阿寒湖の自然及び最大の特徴であるマリモの生態について体験的に学ぶプログラムを開発し、世界で唯一の球状マリモの生育地である阿寒湖の特殊性や自然の豊かさを国内外に発信する <具体的な取り組み> ・チュウルイ島ガイドツアー、シュリコマベツ湾阿寒湖の自然やマリモを体験的に学ぶプログラムを開発する（阿寒観光協会まちづくり推進機構） ・シュリコマベツ湾の生育地再生について調査や手法開発を行い、上記のプログラムに反映する（環境省） ・プログラムの開発や、その在り方に関して森林利活用や保全などの観点から提言やサポートを行う。（前田一步園財団）						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光					
目標						
・チュウルイ島ガイドツアー（モニターツアー）を令和 3 年度に実施する。 ・シュリコマベツ湾における保護活動のツアープログラム化の可能性を検討し、令和 4 年度に方向性を見出す。						
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）	
スケジュール	体験プログラムの提供	旅行者のニーズに合わせて継続的に改善				
	シュリコマベツ湾生育地再生手法の検討	再生事業の実施				
	自然やマリモを体験的に学ぶプログラムの開発					
進捗状況						
想定している予算措置						
自主財源（阿寒観光協会まちづくり推進機構）、直轄予算（環境省）、自然環境整備交付金（環境省）、地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁）						

<取組個票>

取組名称	アイヌ文化のブランディングとプロモーションの実施				番号	AK-3
取組主体	阿寒観光協会まちづくり推進機構、阿寒アイヌ工芸協同組合					
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号		C5、H4	
・アイヌ文化を活用したツアープログラム（Anytime Aynutime）を販売。（阿寒観光協会まちづくり推進機構） ・2019 年カムイルミナの実施。（阿寒観光協会まちづくり推進機構） ・2020 年 COVID19 の影響により“カムイルミナ”を中止し、環境省補助事業等の支援を得てアイヌの思想をベースにした“カムイへの祈り”を 8/1～11/8 に開催。（阿寒観光協会まちづくり推進機構） ・アイヌ古式舞踊とイオマンテの火まつりの磨き上げを行った（阿寒アイヌ工芸協同組合） ・アイヌアートミュージアムの改築を行った（阿寒アイヌ工芸協同組合）						
取組内容						
・2021 年以降は 5 月～11 月に“カムイルミナ”を開催する。（阿寒観光協会まちづくり推進機構） ・アイヌ文化を活用したツアープログラムのブラッシュアップと認知度の向上（阿寒観光協会まちづくり推進機構） ・“ロストカムイ”と“カムイルミナ”のプロモーションを実施。（阿寒観光協会まちづくり推進機構） ・阿寒湖アイヌシアターイコロの公演演目である「イオマンテの火まつり」と「アイヌ古式舞踊」の更なる磨き上げを行う。（阿寒アイヌ工芸協同組合） ・昨年度整備した「アイヌアートミュージアム」を 2021 年 6 月より本格的にオープンする。（阿寒アイヌ工芸協同組合）						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光					
目標						
・2022 年度までに、シアターイコロの入場者を新型コロナ以前の 55,000 名に回復することを目指す。 ・アイヌアートミュージアムは 2023 年度来場者 20,000 名を目指す。						
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）	
スケジュール	ロストカムイ、カムイルミナの実施とプロモーション					
	公演演目のさらなる磨き上げ					
	アイヌアートミュージアムオープン					
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						
釧路市補助金						

<取組個票>

取組名称	阿寒湖畔 EMC のインバウンド対応機能強化			番号	AK-4
取組主体	環境省				
SUP2020 との関連	新規・継続		関連施策の番号	C1	
・ センター内の暖炉スペースの家具等のリニューアル、自然公園財団によるコーヒー販売を実施。 ・ ICT を用いた展示の多言語化を実施。					
取組内容					
・ 阿寒湖畔 EMC について、アドベンチャートラベル（AT）を中心としたインバウンドへの対応強化を進めるとともに、国立公園の拠点施設として持続可能な観光のモデルとなる取組を率先して進める。 ・ ひがし北海道の中央に位置する阿寒摩周国立公園の特徴を活かした広域的な情報発信機能の強化について検討する。 <具体的な取り組み> ・ 「エコミュージアムセンター」の名称を海外でも一般的な「ビジターセンター」に名称変更するとともに、施設の認知度や誘導を促進するため、エントランスを改修する。 ・ 地域で取り組むマイボトル推進などの持続可能な観光推進の取組に協力するため、給水スポットを設置する。 ・ 知床国立公園、釧路湿原国立公園等も含めた広域的な情報発信について、必要な機能等について検討し、機能強化を図る。					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光				
目標					
・ 2021 年までにセンター内部の改修を、2022 年までにセンター前広場等の改修を完了する。 ・ 2022 年までに広域的情報発信機能強化の方針を検討する。					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	センター内部の改修 センター前広場の改修 広域的情報発信機能の強化検討 （必要に応じて）機能強化				
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
直轄予算（環境省）、国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）					

<取組個票>

取組名称	阿寒湖畔沿いの歩道の整備及び利活用				番号	AK-5
取組主体	環境省、釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構					
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号 C8,C10			
・ ボッケ遊歩道の再整備、阿寒湖畔滝口線道路（滝口自然探勝路）の一部整備を完了。						
取組内容						
・ 阿寒湖温泉と雄阿寒岳登山口である滝口を結ぶ歩道等（森のこみち含む）を整備し、阿寒湖畔の新たな活用を図るとともに、阿寒摩周トレイルネットワーク構想の実現に寄与する。（環境省） ・ 滝口線の維持管理については、草刈り及び簡易な倒木処理などを定期的に行う体制を構築する。（釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構、環境省） ・ 歩道の整備と合わせ、温泉街と滝口をつなぐ連絡船の運航やまりむ号（無料送迎用マイクロバス）の運行など、湖畔の新たな活用を進める。（阿寒観光協会まちづくり推進機構）						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
・ 2021 年までに阿寒湖畔滝口線道路の整備を完了する。 ・ 2022 年までに「森のこみち」の整備を完了する。						
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）	
スケジュール	阿寒湖畔滝口線道路の整備	「森のこみち」の整備				
	阿寒湖畔滝口線道路の維持管理、利活用					
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						
直轄予算（環境省）						

<取組個票>

取組名称	阿寒湖フォレストガーデン整備				番号	AK-6
取組主体	阿寒観光協会まちづくり推進機構、釧路市					
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号 C14			
・2018 年駐車場の供用開始。2019 年から桜並木道延伸整備中。（阿寒観光協会まちづくり推進機構） ・フォレストガーデンの整備に対して、観光振興臨時基金を活用した支援を実施中。（釧路市）						
取組内容						
・フォレストガーデンの植栽計画の実施並びに駐車場の営業機能向上を検討する（阿寒観光協会まちづくり推進機構） ・阿寒観光協会が取組むフォレストガーデンの整備に対して、観光振興臨時基金を活用した支援を実施していく。（釧路市）						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
・令和 5 年度までに桜並木等植栽を完了する。						
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）	
スケジュール	植栽計画の実施					
	駐車場の営業機能の向上を検討					
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						
観光振興臨時基金						

<取組個票>

取組名称	阿寒湖畔スキー場の利活用最大化				番号	AK-7
取組主体	阿寒観光協会まちづくり推進機構					
SUP2020 との関連	新規・継続	関連施策の番号		C16		
・E バイクを活用したオンネトー、雌阿寒岳を含めた旅行商品を開発。(阿寒観光協会まちづくり推進機構)						
取組内容						
・競技スキーの拠点としての受け入れ体制を検討する。(阿寒観光協会まちづくり推進機構)						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
スキー場を活用した AT プログラムを 2022 年度に商品化する。						
	2021 (令和 3)	2022 (令和 4)	2023 (令和 5)	2024 (令和 6)	2025 (令和 7)	
スケジュール	競技スキー拠点としての受け入れ体制の検討など					
進捗状況	※2021 年度以降の フォローアップ に使用					
想定している予算措置						

<取組個票>

取組名称	阿寒湖まりむ館の観光案内所における外国人利用者への観光情報提供サービスの充実				番号	AK-8
取組主体	釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構					
SUP2020 との関連		新規・ 継続	関連施策の番号 C20			
・外国人利用者への観光情報提供サービスの充実強化のため、外国語（英語、中国語等）堪能なスタッフの配置を実施。（釧路市）						
取組内容						
・外国人利用者への観光情報提供サービスの体制を継続する。（釧路市） ・外国人向けパンフレットを充実させる（阿寒観光協会まちづくり推進機構） ・デジタルサイネージ（観光案内ボード）の設置（阿寒観光協会まちづくり推進機構）						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
体制の継続を実施（釧路市） デジタルサイネージの方向性と決定。令和4年度以降設置予定（阿寒観光協会まちづくり推進機構）						
	2021（令和3）	2022（令和4）	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）	
スケジュール	外国人利用者への観光情報提供サービスの体制の継続					
	外国人向けパンフレットの充実など					
進捗状況	※2021年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						

<取組個票>

取組名称	阿寒湖と周辺湖沼群の世界自然遺産認定に向けた活動の推進			番号	AK-9
取組主体	釧路市、釧路国際ウェットランドセンター阿寒湖沼群マリモ研究室				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号 C21		
・世界遺産の国内候補地選定に向け、これまでに得られた研究成果を論文として発表するとともに、新たな知見を収集すべく研究グループの立ち上げを目指す。 ◆日本生態学会大会等で研究発表の他、国際誌に継続的に論文を発表					
取組内容					
・世界遺産の国内候補地選定に向け、これまでに得られた研究成果を論文として発表するとともに、新たな知見を収集すべく研究グループの立ち上げを目指す。(釧路市) ◆阿寒地域の自然環境の顕著で普遍的な価値を示す。(阿寒湖沼群マリモ研究室) 【阿寒カルデラ湖沼群】 ・様々な遷移段階にある湖沼生態系の標本庫であることの証明 【噴気帯および温泉群】 ・中性・酸性・塩基性の順に変化する火山生態系の標本庫であることの証明 【マリモ】 ・阿寒の生態系と生物多様性を象徴する生物であることの証明 ・球化する生物の典型例であることの証明 ・世界で最後に残された貴重な生育地であることの証明					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光				
目標					
2023 年を目途に世界自然遺産登録の学術的根拠となり得る各種研究成果を発表（知見の蓄積） 継続して環境省および関係団体、市民へ知見の提供・PR 活動の実施					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	学術的根拠となり得る各種研究成果の整理、発表				
	環境省および関係団体、市民に対する研究成果等知見の提供・PR 活動				
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					

<取組個票>

取組名称	阿寒湖温泉街清掃および駐車場の修繕				番号	AK-10
取組主体	自然公園財団阿寒湖支部					
SUP2020 との関連		新規・継続		関連施策の番号 C6		
昨年度は未着手になった料金所及び柵の老朽化対策を 2021 年に実施いたします。						
取組内容						
当財団は阿寒湖の園地や遊歩道を中心に美化清掃活動を行っていますが、阿寒湖温泉街を中心に清掃を行ってはおらず、作業時に通った時に清掃する程度でした。ただ、阿寒湖温泉に宿泊された利用者が必ず通る場所ですので、ここを繁忙期に重点的に清掃し、阿寒摩周国立公園を美しく感じて頂きたいです。 また、SUP2020 の継続して取り組む既存施設である駐車場料金所および柵について塗装をし直し、また破損部分を治すことで、美しい国立公園を感じて頂ければと思います。						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
阿寒湖温泉街清掃（5月1回、7月1回、8月2回、9月1回、10月1回）計6回 2021 年中に駐車場料金所および柵の塗装を完了する。						
	2021（令和3）	2022（令和4）	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）	
スケジュール	清掃活動					
	塗装等の完了					
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						
自主財源（自然公園財団）						

<取組個票>

取組名称	阿寒湖における AT（アドベンチャーツーリズム）の推進				番号	AK-11
取組主体	阿寒観光協会まちづくり推進機構 釧路市					
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号 C2			
・ アドベンチャーツーリズム (AT)を基軸にする富裕層誘致を図るため、国や道などと連携した誘致活動により ATTA が主催するワールドサミット (ATWS2021 北海道) の開催が決定。エクスカージョンの実施エリアの一つとなる (釧路市) ・ AT ツアーのツアーオペレーター等を担う DMO や DMC に対する支援を実施。(釧路市) 2021 年 9 月 ATWS 北海道にむけて、オペレーター B の認定を受け阿寒摩周国立公園をフィールドとする PSA (Pre summit adventure) の企画・造成を実施。(阿寒観光協会まちづくり推進機構)						
取組内容						
・ ATWS 実行委員会として各種の取組を実施する。(釧路市) ・ 顧客ニーズなどへの対応のため、ツアーコンテンツの磨き上げ、プロモーション等や環境整備に取り組む DMO 等への支援等を継続実施。(釧路市) ・ ATWS 受け入れプログラムの中でのガイドの養成促進 (阿寒観光協会まちづくり推進機構) ・ 富裕層をターゲットとした英語ガイド育成や多数の E バイク確保などの AT 受け入れ整備 (阿寒観光協会まちづくり推進機構)						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
・ ATWS 2021 北海道、エクスカージョンの開催 (釧路市) ・ ATWS をフックに 2022 年度に B to B を主体とするインバウンドマーケットへ参入する (阿寒観光協会まちづくり推進機構)						
	2021 (令和 3)	2022 (令和 4)	2023 (令和 5)	2024 (令和 6)	2025 (令和 7)	
スケジュール	ATWS 開催 エクスカージョン の実施 (釧路市)					
	ツアーコンテンツの磨き上げ、環境整備への取組み等					
	富裕層をターゲットとした AT 受入れ整備					
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						
地方創生推進交付金等						

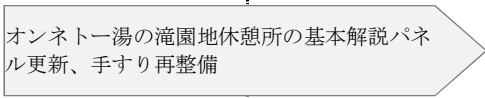
<取組個票>

取組名称	自然体験拠点施設等の魅力向上				番号	AK-12
取組主体	釧路市					
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号		C13,C16,C17	
・国設阿寒湖畔スキー場において計画的な整備を実施。また利用案内看板を英語併記に改善。 ・白湯山展望台の再整備に向けた情報収集等を実施中。 ・マリモ展示観察センターにおいて外国人による解説文などによる多言語化対応を実施。						
取組内容						
・国設阿寒湖畔スキー場は、利用者の安全確保と効率的な経営環境整備のため、老朽化した人工降雪機等の計画的な整備を実施する。また、コース拡張等の魅力向上方策について検討を進める。 ・白湯山展望台は、令和5年度以降の計画的な整備に向けて、令和4年度までに利用者目線での再整備方針の検討を実施する。 ・マリモ展示観察センターは、令和5年度以降の計画的な整備に向けて、令和4年度までに展示内容等のリニューアルの検討を進める。						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
再整備方針の決定						
	2021（令和3）	2022（令和4）	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）	
スケジュール	計画的な整備					
	再整備の方向性を検討・決定		計画的な整備実施予定			
進捗状況	※2021年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						
自然環境整備交付金を予定（環境省）						

<取組個票>

取組名称	オンネトー国設野営場休憩舎整備			番号	ON-1
取組主体	足寄町、NPO法人あしよろ観光協会、環境省、林野庁（十勝東部森林管理署）				
SUP2020 との関連	新規・継続	関連施策の番号	D1.D2.D4.D7.D8		
- 雌阿寒岳オンネトー地区の適切な利用を推進するための活動拠点としての施設整備 - 同地区利用におけるアメニティー及びインフォメーションの提供 - ツアープログラムの開発実践					
取組内容					
オンネトー国設野営場に当地区の活動拠点となる休憩舎を整備し、国内外からの利用者の利便性を高め、地域での観光利用や長期滞在を促進するため、トレイルやフィールド情報の発信、体験型ツアープログラムの受け入れやイベントの開催、NPO法人あしよろ観光協会及び民間事業者と連携しながら、適切な利用を促進するための仕組みを構築する。					
<具体的な取り組み>					
- 雌阿寒岳オンネトー地区の適切な利用を推進するための活動拠点としての施設整備（足寄町） アクティビティー利用者をはじめ、地域のガイドなどの交流拠点となるような機能向上を図る。 - 同地区利用におけるアメニティー及びインフォメーションの提供（あしよろ観光協会・民間事業者） 軽食や活動に必要な道具の販売などを通して利用者がくつろげる環境を提供し、ロングトレイルの西の発着点として、観光情報をはじめ、トレイルや四季折々のフィールド情報について、利用者目線での提供を行う。 - ツアープログラムの開発及び実践（足寄町・あしよろ観光協会・民間事業者） ツアープログラムの誘致や、イベントやワークショップの開催を通じ、新たな利用者の誘致と適切な利用方法の提案を行う。 - 自然公園等整備事業交付金による支援を実施する。（環境省） - 新休憩舎用地の賃借、森林レクリエーション地区として適切な利用を図る（十勝東部森林管理署）					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光				
目標					
2021 年までに休憩舎の建築を完了する 2022 年までに運営主体を決定し、供用を開始する 2025 年までに休憩舎年間の来場者数を 4,000 人とする（2019 年野営場利用者 2,110 人）					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	施設建設	供用開始			
	運営主体協議	雌阿寒岳オンネトー地区の活動拠点として運営検討（以後継続）			
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
自然公園等整備事業交付金（環境省）					

<取組個票>

取組名称	オンネトー湯の滝園地の再整備			番号	ON-2
取組主体	北海道（十勝総合振興局）、環境省、足寄町、オンネトー魅力創造委員会				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号		
・2020（令和2）年、オンネトー園地再整備を「オンネトーの魅力創造委員会」の意見を聞きながら取りまとめ、オンネトー湯の滝園地の基本解説文を多言語解説整備支援事業で作成。					
取組内容					
・オンネトー湯の滝園地の休憩所壁面に掲示している基本解説文パネル（7枚）を更新予定。古くなった解説文の情報を更新し、多言語化を図るとともに、パネルには阿寒摩周国立公園オンネトー園地の特性を考慮したデザインを採用し、阿寒摩周国立公園全体のブランド力向上を図る。あわせて、施設の安全性を確保するため、休憩所の手すりの再整備を予定。（北海道十勝総合振興局）					
・再整備におけるパネルデザイン等の具体的内容は、環境省、足寄町、オンネトー魅力創造委員会と協議する。（北海道十勝総合振興局、環境省、足寄町、オンネトー魅力創造委員会）					
・自然環境整備交付金による支援を実施（環境省）					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光				
目標					
2022（令和4）年までに、オンネトー湯の滝園地休憩所の基本解説パネル更新、手すり再整備を実施。					
	2021（令和3）	2022（令和4）	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）
スケジュール					
進捗状況	※2021年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
自然環境整備交付金（環境省）					

<取組個票>

取組名称	オンネトー・雌阿寒岳の維持管理体制の構築			番号	ON-3
取組主体	環境省、林野庁（十勝東部森林管理署・根釧西部森林管理署）、北海道（十勝総合振興局、釧路総合振興局）、足寄町、釧路市				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号	D1, D3, D5, D7	
・ オンネトー・雌阿寒岳の適正な利用推進について、全体構想のとりまとめ ・ 利用料導入について、オンネトー魅力創造委員会および関係行政機関で検討を実施					
取組内容					
・ オンネトーや雌阿寒岳登山道の整備・維持管理体制の構築に向けて、関係機関等における協働管理を推進し、質の高い利用環境の提供を行う。					
＜具体的な取り組み＞					
・ 雌阿寒岳の公園事業執行化および日常の維持管理体制について、関係行政機関と調整し方向性を検討する。（環境省、林野庁、北海道、足寄町、釧路市）					
エリア	阿寒湖	オンネトー・雌阿寒岳	川湯温泉・硫黄山	摩周湖	屈斜路湖
	阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光				
目標					
・ 2023 年までに雌阿寒岳登山道の事業執行化および日常の管理体制について関係機関で合意形成し、2024 年からの事業執行を目指す。					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	雌阿寒岳登山道の維持管理体制について検討、合意形成			事業執行化および関係団体による協働管理	
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
直轄予算（環境省）、自主財源（北海道、足寄町）、自然環境整備交付金（環境省）					

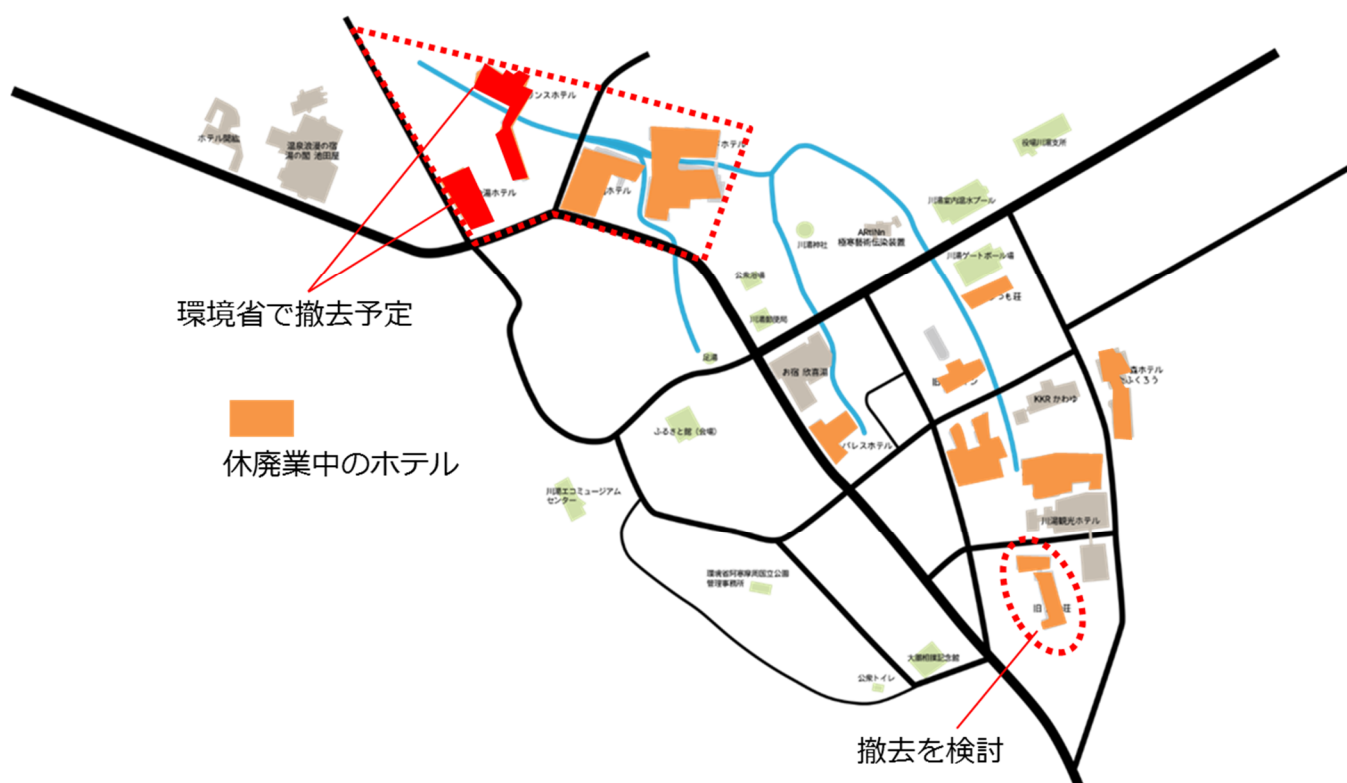
<取組個票>

取組名称	川湯温泉の再生及び新たな魅力のブランド化			番号	KA-1
取組主体	弟子屈町、環境省、摩周湖観光協会、川湯地域運営協会				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号	E6、E7、E8	
・川湯温泉の景観を阻害していた廃屋 1 棟撤去し、川湯温泉再生に向けたイベントを開催 ・川湯のシンボルである温泉川の景観改善のため、不要になった配管を撤去し、川沿いに遊歩道を整備 ・川湯温泉の効能や森の散策による健康増進効果等を証明し、新しい湯治スタイルのブランド化に着手					
取組内容					
・川湯温泉の再生に向け、川湯の温泉街及び川湯園地を一体的に検討したマスタープランを策定する ・マスタープランに基づき廃屋となったホテルの撤去及び空き家の活用等を積極的に進め、新たな民間投資を呼び込むことで、廃屋が集中したエリアを中心に川湯温泉の面的再生を図る (別紙参照)					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 <u>川湯温泉・硫黄山</u> 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	<u>1) ウィズコロナ</u> 2) ひがし北海道 AT <u>3) 官民連携</u> 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光				
目標					
・2021 年までに廃屋 1 棟を撤去し、民間投資を含めた跡地の活用方法を決定する ・2024 年までにさらに廃屋 2 棟を撤去し、民間投資による跡地の再整備の方針を決定する					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	旧川湯プリンス撤去	跡地への民間投資			
		その他の廃屋（御園ホテル、グランドホテル、湖山荘）の撤去			民間による再整備
	マスタープラン策定	マスタープランに基づく整備			
		川湯温泉のブランド化を推進			
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
自主財源（弟子屈町、摩周湖観光協会）、国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）、直轄予算（環境省）、まち再生出資業務（民間都市再生機構、国土交通省）					

(別紙)

<具体的な取り組み>

- ・ 廃屋の所有者等と権利関係を整理し、必要に応じて取得するなど廃屋の撤去が可能な条件を整えた上で、交付金等を活用して撤去を進める（弟子屈町）
- ・ 直轄事業（旧川湯プリンスホテル）及び交付金により廃屋撤去の実施・支援を行う（環境省）
- ・ マスタープランに基づいた川湯園地の整備（岩盤と温泉川のシンボル化、ホテル川湯パーク跡地の活用、夜の森の散策、温泉配管の整理等）を行う（環境省）
- ・ 川湯温泉の特徴的な泉質、周辺の森の散策、国立公園でのアクティビティなどを楽しみながら、長期に滞在して心身をリフレッシュする新たな湯治スタイル（ワーケーション含む）を推進（摩周湖観光協会）
 - ・ 外壁塗装等の景観改善を、手作業で行える範囲で実施（摩周湖観光協会、川湯地域運営協会）
- ・ ミソノ川、温泉川の清掃を実施（川湯地域運営協会）



<取組個票>

取組名称	川湯 EMC のインバウンド対応機能強化				番号	KA-2
取組主体	環境省					
SUP2020 との関連	新規・継続		関連施策の番号		E1	
施設内のリニューアルを完了し、公募によりカフェの営業開始。						
取組内容						
- 川湯 EMC について、アドベンチャートラベル (AT) を中心としたインバウンドへの対応強化を進めるとともに、国立公園の拠点施設として持続可能な観光のモデルとなる取組を率先して進める。 - ひがし北海道の中央に位置する阿寒摩周国立公園の特徴を活かした広域的な情報発信機能の強化について検討する。						
<具体的な取り組み>						
「エコミュージアムセンター」の名称を海外でも一般的な「ビジターセンター」に名称変更するとともに、既存の標識類を更新する。 - 国立公園の利用情報の提供やツアー予約等に対応するため、ツアーデスク等を整備する。 - アドベンチャートラベル対応するため、センター内の展示や設備等の改修を実施する。						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
2021 年度までにツアーデスクの改修及び営業開始をする。 2023 年度までにセンター内の展示や設備等の改修を完了する。						
	2021 (令和 3)	2022 (令和 4)	2023 (令和 5)	2024 (令和 6)	2025 (令和 7)	
スケジュール	ツアーデスクの改修 及び営業	センター内の改修 (AT 対応)				
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						
直轄予算 (環境省)、国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業 (環境省)						

<取組個票>

取組名称	町民への駐車場無料開放				番号	KA-3
取組主体	自然公園財団 川湯支部					
SUP2020 との関連		新規・継続		関連施策の番号		E5.F7
・老朽化した施設の簡易修繕や補修、美化清掃及び維持管理を実施。 ・摩周湖第一展望台及び硫黄山駐車場のチケットハウス屋根、壁を塗装し景観を整えた。 ・自然観察会用の雨具レンタル事業を実施。 ・駐車料金、使途を明瞭にするため料金表示看板を設置。 ・地域住民による魅力再発見を促すため、弟子屈町民向けに駐車場無料開放を 2018 年～2020 年で実施。 ・摩周湖第一展望台及び硫黄山駐車場のチケットハウスに翻訳機「ポケットク」配備。						
取組内容						
・2021～2025 年まで継続して地域住民へ摩周湖・硫黄山の魅力を再発見して頂けるよう、駐車場無料開放を実施していきたい。						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
摩周湖・硫黄山駐車場を 2021～2025 年まで、年に 1～2 回（春・秋）地元限定とした駐車場無料開放を実施し、町民が摩周湖や硫黄山の自然や景観に触れ、地元の良さを再実感してもらえるようにする。						
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）	
スケジュール	年 1～2 回 駐車場無料開放を実施	年 1～2 回 駐車場無料開放を実施	年 1～2 回 駐車場無料開放を実施	年 1～2 回 駐車場無料開放を実施	年 1～2 回 駐車場無料開放を実施	
進捗状況						
想定している予算措置						

<取組個票>

取組名称	摩周湖第一展望台及び硫黄山レストハウスのリニューアル			番号	KA-4
取組主体	弟子屈町、北海道、環境省、自然公園財団川湯支部				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号	F1、F9	
・摩周湖第一展望台のあり方について関係者で議論し、レストハウスのカフェスペースの拡充、園地の再整備等を実施 ・硫黄山レストハウスについても硫黄山側にゆっくりとくつろげるカウンターを設置					
取組内容					
・REVIC、弟子屈町、北海道、環境省等により連携協定を締結し、協定に基づき、観光遺産産業化ファンドからの出資等により、DMO の司令塔となる DMC 機能を有した組織を構築する。 ・現在弟子屈振興公社が運営する摩周湖第一展望台及び硫黄山のレストハウスの経営改善を図り、DMC 機能を持続的に維持するための自主財源を確保する。 ・上記の経営改善とあわせて周辺の公共施設の再整備（ユニバーサルデザイン対応含む）、レストハウスへの展示機能の追加、駐車場管理のあり方などを検討し、官民連携により摩周湖、硫黄山を一過性の立ち寄りポイントではなく、滞在型の利用拠点としてのリニューアル、エリアのシンボルスポットとしての誘客促進効果を高める。 ・摩周、硫黄山のスポット観光のみにとどまらず、そこを起点とし、地域細部に流動促進ができるような、プログラム構築、交通機関連携などにより、地域・広域エリア内の回遊促進を推進させる仕組みを検討する。 ・硫黄山の地熱を活用し、新たな体験コンテンツ（蒸し野菜や温泉卵等）を提供できる仕組みを検討する。 ・摩周湖については、ロングトレイル構想の取り組みと連携して、宿泊機能の必要性について検討する。					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光				
目標					
・2021 年中に硫黄山、2022 年中に摩周湖第一展望台のレストハウスのリニューアルを実施する。 ・2025 年までに硫黄山及び摩周湖レストハウスの経営改善を完了し、継続的な利益体質を確立する。					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	ハンズオン支援				
	ファンド投資実行				
	硫黄山リニューアル		摩周湖リニューアル		
	摩周湖宿泊機能等検討			公園計画変更（点検）	
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
直轄予算（環境省）、自然環境整備交付金（北海道）					

<取組個票>

取組名称	摩周・屈斜路トレイル（MKT）ルートの拡充と利用推進			番号	KA-5
取組主体	弟子屈町、環境省、摩周湖観光協会、地域事業者、林野庁（根釧西部森林管理署）、北海道（釧路総合振興局）				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号	E4, G5	
・「NPO 法人てしかがトレイルクラブ」が設立され、弟子屈町内のトレイルルートの維持管理を委託。 ・摩周・屈斜路トレイル（摩周湖第一展望台から屈斜路プリンスホテル）をオープン。					
取組内容					
2020 年にオープンした摩周・屈斜路トレイル（MKT）を基軸とし、延伸ルートおよび MKT に接続するショートコースを開発し、屈斜路カルデラ外輪山トレイル（美幌地区三町広域観光協議会）等の周辺地域とも連携しながら広域ロングトレイルの実現に貢献する。 ＜具多的な取組＞ ・ MKT の延伸ルートを調査し、関係者と協議の上整備を行う。（弟子屈町） ・ MKT に繋がるショートコースを調査し、関係者と協議の上整備を行う。（弟子屈町、北海道開発局、北海道） ・ 利用者目線での道標、解説看板などを整備し、利用者数把握のためのカウンターを設置する。（弟子屈町、環境省、北海道、根釧西部森林管理署） 長期滞在利用者のための荷物運搬や送迎などのロジスティクスについて地域事業者と協議・検討する（摩周湖観光協会）					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光				
目標					
・ 2023 年までに延伸ルートをオープンする ・ 2025 年までに摩周・屈斜路トレイルを多国籍の旅行者が歩いている状態にする ・					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	摩周・屈斜路トレイルの延伸を検討 トレイル上の道標・解説板・利用者カウンター等の整備	延伸ルートオープン	利用者のロジスティクス等を地域事業者と協議		利用者増に向けた PR
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
自主財源（弟子屈町）、グリーンワーカー事業（環境省）					

＜取組個票＞

取組名称	持続可能な観光の国際基準を活用した地域づくり			番号	KA-6
取組主体	弟子屈町				
SUP2020 との関連	新規・継続		関連施策の番号		
取組内容					
SDGs（持続可能な開発目標）にも対応した GSTC（持続可能な観光の国際基準）を活用した観光地域づくりを実践し、世界標準での持続可能な観光地整備を図る。これにより、新型コロナウイルス終息後のインバウンド観光の回復時にいち早く優良な旅行者を呼び込み、交流人口拡大による地域経済の再生につなげる。また、専門人材の育成と DMO 等を中心とした管理体制によるデスティネーション・マネジメント（観光地管理）能力が高まることが期待され、自然環境や文化遺産の保全、感染症や災害危機管理等の多面的な課題に対応した観光地域づくりを展開していく。 ＜具体的な取組＞ ①持続可能な観光地域整備計画策定事業として、国際基準に対応した関連計画等を整備する。 ・新規の観光計画・戦略等の策定、関連ガイドライン等の策定及び改訂 等 ②持続可能な観光地域づくり体制強化事業として、サステナビリティコーディネーターの配置など、地域において持続可能な観光地域づくりを推進する体制を構築及び強化する。 ・コーディネーターの配置、管理組織(DMO 等)の設立及び強化、人材育成のための研修 等 ③持続可能な観光指標モニタリング調査事業として、持続可能な観光の国際基準に基づき、持続可能性を評価分析する調査業務と運用体制を構築する。 ・モニタリング体制構築、持続可能な観光指標調査、モニタリング結果の公表（レポート、報告会） 等 ④持続可能な観光地域プログラム開発事業として、地域において持続可能な観光の国際基準に対応したモデルづくりと観光コンテンツを構築する。 ・観光商品、地域づくりプログラム開発及び強化、事業者支援プログラム実施 等 ⑤持続可能な観光地域プロモーションとして、国際認証・表彰制度への参加や、旅行者・旅行会社・関連業界・メディア等に対するプロモーションを展開する。 ・プロモーション計画・戦略の策定、プロモーション強化、モニターツアー・ファムトリップ企画 等					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光				
目標					
【2025 年度】持続可能な観光の国際基準を活用した、地域経済の再生と環境保全による観光地域づくり。					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	観光振興計画策定及び改定				
	観光商品、地域づくりプログラム開発等				
	サステナビリティコーディネーターの配置、モニタリング体制構築、調査等				
状況 捗	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
地方創生推進交付金（総務省）					

<取組個票>

取組名称	川湯温泉におけるナイトタイム活用の推進				番号	KA-7
取組主体	摩周湖観光協会、川湯地域運営協会、地域事業者、弟子屈町、環境省					
SUP2020 との関連		新規・継続		関連施策の番号		
取組内容						
・2020年に満喫プロジェクトの一環として環境省社会実験として実施した「川湯の森ナイトミュージアム」の継続実施を始め、夜間の時間帯における国立公園の自然を楽しむ新たな利活用を推進する。 <具体的な取り組み> ・「川湯の森ナイトミュージアム」の継続実施（摩周湖観光協会、川湯地域運営協会） ・川湯地域にて夜間の時間帯を活用した催し等の検討及び実施（摩周湖観光協会、地域事業者） ・川湯温泉街の回遊性を高める照明の設置（弟子屈町） ・「川湯の森ナイトミュージアム」等の照明が生体系に与える影響の調査（環境省）						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 <u>川湯温泉・硫黄山</u> 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク <u>5) 新たな利活用</u> 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
・2021年から「川湯の森 ナイトミュージアム」の継続実施 ・2021年に新たな夜間の時間帯利用方法の検討を行い、2022年から実施する						
	2021（令和3）	2022（令和4）	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）	
スケジュール	川湯の森ナイトミュージアムの継続実施					
	催しの検討	催しの実施、及び見直し				
	回遊性を高める照明の設置					
	照明の生態系への影響調査（随時）					
進捗状況	※2021年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						
自主財源（摩周湖観光協会、弟子屈町）、直轄予算（環境省）、国立公園等の自然を活用した滞在型観光コンテンツ創出事業（環境省）						

<取組個票>

取組名称	裏摩周園地内休憩所の再整備について			番号	MA-1
取組主体	清里町				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号	F9	
・裏摩周園地の再整備について、方向性や利用の在り方の検討を環境省・北海道と連携し、実施した。					
取組内容					
老朽化が進む裏摩周園地の休憩所について、再整備の方向性に基づき、施設の改修を検討するとともに、充実したサービス提供及び管理体制の強化を図る。 <具体的な取り組み> ・裏摩周休憩所の再整備について、管理人・観光協会など関係機関との協議の場を設け、検討する。また、提供するサービス内容の見直しやサービスを提供できる人材の育成など管理体制の強化についても同様に協議・検討して方向性を決定する。（清里町、きよさと観光協会）					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光				
目標					
・2022 年度までに、休憩所の整備内容及び管理体制、サービス内容の充実に向けた方向性について、整理する。 また、2025 年度までに上記方向性に基づき、施設改修・管理体制の再構築など必要な措置を講ずる。					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	方向性の整理 施設整備・管理体制の再構築				
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
自主財源（清里町）、自然環境整備交付金（環境省）					

<取組個票>

取組名称	神の子池周辺の整備について				番号	MA-2
取組主体	清里町					
SUP2020 との関連			新規・継続	関連施策の番号		F12
・神の子池周辺の整備基本計画の策定を行い、整備の方向性の整理を行った。						
取組内容						
・神の子池の駐車場・トイレ・管理棟の整備について調整を引き続き行う。						
<具体的な取り組み>						
・各施設の整備に向けて、国有林野を所管する林野庁など関係機関との調整を行う。(清里町、網走南部森林管理署)						
・各施設整備の優先順位・施設規模等の具体的整理をする。(清里町)						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
2023 度までに方針を決定し、2024 年度から神の子池周辺施設整備を行う。						
	2021 (令和 3)	2022 (令和 4)	2023 (令和 5)	2024 (令和 6)	2025 (令和 7)	
スケジュール	神の子池周辺施設の整備の検討					
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						
自主財源 (清里町)、自然環境整備交付金 (環境省)						

<取組個票>

取組名称	裏摩周展望台 - 神の子池トレイルルートにおけるツアー・プログラムの開発及びガイド付ツアーの確立			番号	MA-3
取組主体	きよさと観光協会、清里町				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号	F4	
・トレイルルートの検討のための現地踏査を踏まえ、トレッキングやマウンテンバイクのガイド付モニターツアーを実施。 ・倒木処理、ルート案内標識の設置など、ルート活用に向けた必要な整備を行った。					
取組内容					
裏摩周展望台 - 神の子池トレイルルートについて、より質の高い体験プログラムの提供の実現に向けた検討を進め、コンテンツ化を図るとともに、ルート情報の整理を行い、プロモーションをかけるなど、魅力の発信に努める。また、ガイドの育成強化を図り、ガイド付ツアーの早期実現を図る。 <具体的な取り組み> ・トレイルルートを活用したトレッキング・マウンテンバイクツアーなどのイベントを開催する。（清里町・観光協会） ・ガイド付きコンテンツの開発に向けた検討協議を進め、ルートの本格的活用を進める（観光協会） ・ルートの所要時間・見どころ・ルート図などの情報を整理し、パンフレット等の作成を進める（清里町・観光協会） ・トレイルルートの魅力を十分に伝えるためのガイドの育成など受け入れ体制を確立する（観光協会）					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光				
目標					
・2022 年度までに、コース標識・案内看板・コースマップ等を作製。 ・2022 年度までに、ガイド付ツアーの検証・確立を行う。					
	2021（令和3）	2022（令和4）	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）
スケジュール	ルート情報の整理・パンフレット等の作成		プロモーション等情報発信		
	ガイド付きツアーの検証・確立				
	ガイドの育成強化				
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
自主財源（清里町）					

<取組個票>

取組名称	摩周第一園地の施設充実化				番号	MA-4
取組主体	北海道（釧路総合振興局）、環境省、弟子屈町、林野庁（根釧西部森林管理署）					
SUP2020 との関連	新規・継続		関連施策の番号 F9			
摩周湖を眺望することができる摩周第一園地の補修工事を 2018・2019 年度に実施しており、2021 年度においても、眺望しながら休憩するスペースがないことから、展望広場にベンチの設置を予定している。						
取組内容						
過年度に整備することのできなかった展望広場等のインターロッキングや木柵を補修する予定としている。 また、眺望しながら休憩するコンテンツがないため、展望広場にベンチの設置を予定している。 展望広場の木柵が高いが、基台を設置し、その上からベンチを設置する方向で予定している。 また、景観支障となっている支障木の枝払いを令和 2 年 12 月 10 日に環境省、弟子屈町、根釧西部森林管理署の 4 者で実施した。冬に施工したため、葉が付いていなかったことから葉が付き始める時期にまた 4 者で打合せを重ね、支障と判断したものを枝払いする。						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
2022 年度までにインターロッキング、木柵、ベンチを整備する。 随時枝払いを行う。						
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）	
スケジュール	インターロッキング、木柵、ベンチの改修 修景伐採（随時） 修景伐採（随時） 修景伐採（随時） 修景伐採（随時） 修景伐採（随時）					
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						
自然環境整備交付金（環境省）						

<取組個票>

取組名称	摩周湖外輪山トレイルの整備				番号	MA-5
取組主体	環境省、弟子屈町、標茶町、清里町、中標津町、林野庁（根釧東部森林管理署、根釧西部森林管理署）					
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号		F9,F11	
・ 摩周岳、西別岳登山道について関係者の協力を得つつ維持管理等を実施。 ・ 荒廃の進んでいる西別岳登山道は 2020 年に再整備のための設計を実施。 ・ 西別岳登山道から裏摩周展望台までのルートを公園計画に追加予定。						
取組内容						
・ 阿寒摩周国立公園トレイルネットワークの路線の一部として、洗掘等で荒廃した西別岳登山道の再整備を実施するとともに、摩周第一展望台から摩周第三展望台、裏摩周展望台へのトレイルについて、関係者による維持管理体制の構築をした上で整備する。						
<具体的な取り組み>						
・ 各トレイルの整備及び維持管理体制について、関係者と協議の上で役割分担等を整理する。（環境省、関係自治体等） ・ 役割分担に応じて、摩周岳西別岳登山道の延長として新規ルートの整備について検討する。（環境省） ・ 役割分担に応じて、各トレイルの維持管理を行う。（関係自治体等）						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光					
目標						
・ 2021 年～22 年に西別岳登山道の再整備を行う。 ・ 2022 年までに摩周第一展望台と摩周第三展望台を結ぶトレイルを整備する。 ・ 2023 年までに摩周第一展望台と裏摩周展望台を結ぶトレイルを整備する。						
	2021（令和3）	2022（令和4）	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）	
スケジュール	西別岳登山道再整備		西別岳登山道の継続的な維持管理			
	摩周第三トレイル設計	摩周第三トレイル整備	摩周第三トレイルの継続的な維持管理			
		裏摩周トレイル設計	裏摩周トレイル整備	裏摩周トレイルの継続的な維持管理		
進捗状況						
想定している予算措置						
直轄予算（環境省）、地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁）						

<取組個票>

取組名称	屈斜路湖の魅力を引き出す高付加価値で新たな利活用				番号	KU-1
取組主体	弟子屈町、北海道（釧路総合振興局）、環境省、林野庁（根釧西部森林管理署）、摩周湖観光協会					
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号	G3、G5		
・2018（平成30）年に利用のあり方全体構想を策定し、構想に基づく取り組みを推進						
取組内容						
・ 広大で静寂な環境である屈斜路湖の魅力を最大限活かした高付加価値で新たな利用を推進する <高付加価値で新たな利用の例> ・ 屈斜路湖に飛び込む爽快感と、国立公園の雄大な景色の中での外気浴を売りにした、世界的なデスティネーションになるような本格的なサウナを屈斜路湖畔に設置し、地域活性化の核としていく（弟子屈町、北海道、環境省） ・ 砂湯については、屈斜路湖畔に面した広大で魅力的なキャンプ場があるが、道道に沿った長細い敷地で管理しづらく、一部の施設の老朽化が進みサービスが低下しているため、民間事業者と連携したサービス向上を図る（北海道、弟子屈町、民間事業者） ・ 現在上陸禁止となっている中島について、一定の制限の下にグランピングやダイニングアウト等の特別な体験が提供できるようルール作りを検討する（弟子屈町、林野庁、環境省） ・ 屈斜路湖畔の宿泊施設や空き別荘等を宿泊拠点としたワーケーションを推進し、クリエイティブな発想を生み出す仕事をする空間としての屈斜路湖の魅力を発進する（摩周湖観光協会、弟子屈町、環境省）						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
・2021年に屈斜路湖の魅力を活かした新たな利用に関する「屈斜路湖ビジョン」を策定する						
	2021（令和3）	2022（令和4）	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）	
スケジュール	屈斜路湖ビジョン策定		ビジョンに基づく取り組み推進			
	漁業釣りルール明確化		砂湯再整備			
進捗状況	※2021年度以降のフォローアップに使用					
想定している予算措置						
自主財源（弟子屈町、北海道）、直轄予算（環境省）、国際観光旅客税（環境省、観光庁等）						

<取組個票>

取組名称	屈斜路カルデラ外輪山トレイルルート整備調査事業			番号	KU-2
取組主体	美幌地区三町広域観光協議会【構成員：美幌町、美幌観光物産協会、大空町、NPO 法人オホーツク大空町観光協会、津別町、津別観光協会】、環境省、林野庁（網走南部森林管理署、根釧西部森林管理署）				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号	G6	
協議会では 2017 年に屈斜路カルデラ外輪山トレイルルートに着目し検討を始めた。翌 2018 年より調査事業に着手した。事業予算は自己財源のほか北海道観光振興機構の「地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業」助成金を活用し、2020 年現在まで現地調査及び先進地視察のほか地元住民を交えた研修会やトレッキングツアーを実施している。当該ルートは阿寒摩周国立公園歩道計画に該当しており、国有地の新規歩道整備の手法や土地の借上・管理等、環境省や森林管理局からヒアリングを行い実行の検討を進めている。笹深い未踏の森林・原野である現地の状況の調査のため、環境省の許可を得て熊笹を伐採しながら実地を行っている。2020 年 9 月、環境省の「令和 2 年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業費」を活用し未踏査区間の調査道を調査、同 11 月開通した。					
取組内容					
・開通した調査道を活用し、実行ルート及びビューポイント候補地等を協議検討する。 ・地域住民への地域観光資源としたトレイルの価値の理解と意識の醸成を目的とした研修会等の開催。 ・ルート開通後の維持管理体制、維持管理費、維持管理母体のほか、ルート利用にかかるガイドラインの素案を作成する。 ・開発着手までのプランを検討する。 （例）三町協議会のほか、環境省、林野庁、北海道、開発局、自治体、自然団体などの関係機関を交え、トレイルルートの開発実行案について協議する場を設ける。 ・トレイル開通後の情報発信等による支援を実施する。（環境省）					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光				
目標					
2023 年開通					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	維持管理体制の検討・確立 ルート開発実行協議 ルート整備着工（予定） 開通予定				
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
グリーンワーカー事業（環境省）、自主財源（美幌町、美幌観光物産協会、大空町、NPO 法人オホーツク大空町観光協会、津別町、津別観光協会）、地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業（北海道観光振興機構）					

＜取組個票＞

取組名称	和琴集団施設地区の再整備			番号	KU-3
取組主体	環境省				
SUP2020 との関連	新規・継続		関連施策の番号	G9,G10	
・ トイレ、標識、和琴遊歩道、木道の改修、キャンピングデッキの新設を実施した。					
取組内容					
・ 冬期利用など閑散期の利用可能性、繁忙期の安全利用指導、キャンプ場でのワーケーション対応などを検討し、既存の民間施設と連携しながら集団施設地区の再整備を進める。					
＜具体的な取り組み＞					
・ 既存民間施設も含めた集団施設地区全体の再整備計画を策定し、計画に基づく再整備を進めるとともに必要に応じて民間施設の改修等の支援を行う。					
・ 和琴探勝路の標識多言語化改修を実施する。					
・ 露天風呂周辺を中心とした園地の再整備を実施する。					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光				
目標					
・ 2021 年度までに和琴探勝路の標識多言語化改修を完了する。					
・ 2024 年度までに園地の再整備を完了する。					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	和琴探勝路の 標識多言語化				
	利用可能性及び 安全利用指導の検討				
	再整備計画の策定	園地の再整備			
進捗状況	※2021 年度以降の フォローアップ に使用				
想定している予算措置					
直轄予算（環境省）、国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）、民間投資					

<取組個票>

取組名称	津別峠展望施設展望スペースの拡張				番号	KU-4
取組主体	津別町、弟子屈町、観光協会（津別町・弟子屈町）、観光事業者（津別町・弟子屈町）					
SUP2020 との関連	新規・継続		関連施策の番号			
取組内容						
津別峠展望施設外構の展望スペースを国立公園内へ拡張することにより、ソーシャルディスタンスを保てるウィズコロナへの対応と、ロングトレイルの受け入れ態勢を整えることに加え、自然の付加価値を高める新たな利活用の可能性を探り、津別峠展望施設の国立公園区域への編入も含めて検討した上で、整備方針を決定する。 <具体的な取り組み> ・展望スペースの拡張に関し、取組主体にて方針の確定（津別町・弟子屈町・観光協会・観光事業者） ・林野庁、環境省へ拡張の可能性についての確認（津別町・弟子屈町） ・林野庁、環境省へ修景林の剪定可否の確認（津別町・弟子屈町） ・展望スペース拡張の自然環境等の調査（津別町・弟子屈町） ・自然の付加価値を高める活用方法の検討及び持続可能な運営体制の構築をする。（津別町・弟子屈町・観光協会・観光事業者）						
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域					
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光					
目標						
・2022 年までに、取組主体での方針確定 ・2022 年までに、自然付加価値を高める活用方法の検討						
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）	
スケジュール	取組主体での方針確定					
	拡張の可能性確認					
	修景林の剪定可否確認					
	自然の付加価値を高める活用方法の検討					
	展望スペース拡張に関する調査					
	自然の付加価値を高める活用の持続可能な運営体制の構築					
進捗状況						
想定している予算措置						
自主財源（弟子屈町・津別町）、自然環境整備交付金（環境省）						

<取組個票>

取組名称	看板・標識類のデザイン統一及び多言語化によるブランド力の向上			番号	NP-1
取組主体	環境省、関係自治体、林野庁（関係森林管理署）、国土交通省北海道運輸局、広域観光協議会				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号		B2, B4
・ 2017 年に看板・標識等に「阿寒自然散策路サイン整備マニュアル」に基づくアイヌ文様を使用することを地域協議会で合意。その後、環境省本省が国立公園ロゴマークを採用した全国統一のデザインを示したため、そこにアイヌ文様を加えたデザイン案を 2020 年度中に決定予定。（環境省） ・ 公園内のトレイルと園地の主要看板について、多言語（英語）化、公園名の更新および不要なものの撤去を推進するためのデータベースを作成し、設置者へ今後の予定等の確認を行った。（環境省） ・ 多言語に対応した解説看板や標識等について、ライターやエディターを現地に派遣し、国立公園の魅力をネイティブ視点で構成された多言語解説文の作成支援を行った。（国土交通省北海道運輸局）					
取組内容					
・ 各主体が国立公園内で整備する主要な看板・標識等について、古い情報を更新し、多言語化を図るとともに、全国の国立公園での統一感と阿寒摩周国立公園の特性を考慮した新たなデザインを採用し、阿寒摩周国立公園のブランド力向上を図る。（環境省）					
<具体的な取り組み>					
・ 2020 年に作成した主要看板のデータベースに基づき、看板設置者は多言語化、公園名の更新と撤去を積極的に進めると同時に重複する内容の看板がある場合は、統合についても関係者で協議する。（環境省、関係自治体、林野庁） ・ 阿寒摩周国立公園で採用するデザイン案を示し、各主体が国立公園内で看板・標識等を整備する際の許認可手続き等を通じて、統一が図られるように促す。（環境省） ・ ブランド力向上に向け、Web による周知や、デザインの利活用を推進する。（広域観光協議会） ・ 設置者不明の景観を著しく損ねている看板について、関係者と協議のうえ撤去を推進する。（環境省） ・ 国立公園の魅力をネイティブ視点で構成された多言語解説文を、様々な媒体で活用されるよう各自治体やDMO等へ共有を図る。（国土交通省北海道運輸局） ・ 多言語化に関する補助事業が実施される場合には、協議会構成員への周知および支援を行う。（環境省）					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光				
目標					
・ 2023 年までに公園名の更新率 100%（環境省） ・ 2025 年までに主要な看板等の多言語化率・新デザイン採用率 100%（環境省） ・ 多言語解説文の利用者増（国土交通省北海道運輸局）					
	2021（令和3）	2022（令和4）	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）
スケジュール	旧公園名の看板の更新・不要な看板の撤去				
	多言語化・新デザインの採用				
	多言語解説文の横展開				
進捗状況					
想定している予算措置					
直轄予算（環境省）、国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）、 地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁）、多言語解説整備（媒体化）支援事業（環境省）					

<取組個票>

取組名称	プロモーションおよび効果的な情報発信の実施			番号	NP- 2
取組主体	環境省				
SUP2020 との関連	新規・継続	関連施策の番号	H1、H2、H3、H4		
- 阿寒摩周国立公園のプロモーション動画を作成し、商談会やウェブサイトで PR を実施 - インバウンド取り扱い旅行会社を対象とした各種ファムトリップを実施 - 環境省本省において JNTO グローバルサイトへ国立公園ページを作成 - ツーリズム Expo、ビジットジャパントラベルマートでの PR および海外旅行会社との商談会を実施					
取組内容					
環境省本省が R2 年度に策定するプロモーション戦略にもとづく各種プロモーション事業を実施し、利用者目線に立った阿寒摩周国立公園の情報発信を検討・実践する					
＜具体的な取り組み＞					
- プロモーションにかかる本省の業務について地域内調整などを行い効果的な遂行をサポートする - 本省業務のインバウンド向け国立公園のウェブサイト（JNTO）の更新等に対応する - 国立公園のホームページ（日本語）について、現存する関係ウェブサイトの統合なども視野に検討し、改変する - ウィズコロナを意識しつつ、SNS などを使ったタイムリーな情報発信について運用ルールを含め検討し、運用を開始する					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光				
目標					
2023 年までにホームページについて検討・改変し、2024 年から運用を開始する 2023 年までに SNS 等を使った情報発信について検討し、2024 年から運用を開始する					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	ホームページの検討と改変			ホームページと SNS の運用（以後継続）	
	SNS 等の検討・運用ルールの策定				
進捗状況					
想定している予算措置					
直轄予算（環境省）					

<取組個票>

取組名称	脱炭素化及びプラスチックゴミの削減等の推進・支援			番号	NP-3
取組主体	環境省、自然公園財団川湯支部、自然公園財団阿寒湖支部				
SUP2020 との関連	新規・継続	関連施策の番号			
取組内容					
国立公園内のビジターセンター等の環境省直轄の利用施設において、率先して脱炭素化及びプラスチックゴミの削減等を推進するとともに、国立公園内の利用施設及び交通等について、自治体及び民間事業者による脱炭素化及びプラスチックゴミの削減等の取り組みを支援する。 <具体的な取組> ・ 公用車での EV 導入及び EV 充電スタンドの設置を進めるとともに、当面の間、自然公園財団が管理する国立公園の公共駐車場において EV の駐車料金を無料化する等により、国立公園内での EV 普及を推進する。（環境省、自然公園財団川湯支部、自然公園財団阿寒湖支部） ・ 環境省直轄の利用施設（阿寒湖畔 EMC、川湯 EMC 等）において、プラスチックゴミが発生するサービスの提供を原則として廃止するとともに、給水器の設置よりマイボトルの使用を推奨し、プラスチックゴミの削減を図る。（環境省） ・ 自立分散型エネルギーとして期待される温泉を活用した熱供給や発電事業を促進する“ゼロカーボン温泉地”のポテンシャル調査を行い、調査結果を踏まえ設備導入等の支援を実施する。（環境省） ・ 国立公園宿舍施設の省 CO2 改修、温泉熱の活用、グリーンモビリティの推進など、エネルギー対策特別会計等の国立公園で活用できる事業を分かりやすく整理して情報提供するとともに、それらを活用した事業により自治体及び民間事業者による脱炭素化等の取り組みを支援する。（環境省）					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光				
目標					
2021 年度までに公用車の EV 導入及び EV 充電スタンドを設置する					
2021 年までに国立公園で活用できる各種支援メニューを分かりやすく整理して情報提供する					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	公用車の EV 導入 EV 充電スタンドの設置 ゼロカーボン温泉地ポテンシャル調査 支援メニューの整理				
	エネルギー特別会計による支援				
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
直轄予算（環境省）、エネルギー対策特別会計（環境省）					

<取組個票>

取組名称	「秀逸な道」による道路景観の確保			番号	BA・1
取組主体	国土交通省北海道開発局、関係自治体				
SUP2020 との関連	新規・継続	関連施策の番号		A8	
- 維持管理及びシーニックバイウェイ北海道の取組等を通じ、良好な景観の確保を継続。 2017（平成 29）年に警戒標識の集約を実施					
取組内容					
- 道路そのものが観光資源となるべく、魅力ある道路景観を有する区間として、「秀逸な道」の区間を設定し、当該区間の更なる魅力向上のために地域と道路管理者が協働で取組内容を検討する。 <具体的な取り組み> 「秀逸な道」区間設定完了後、区間内における景観診断を地域団体等と行い、良好な景観確保に向けた取り組み内容を検討（国土交通省、関係自治体、環境省、地域団体）し、対策内容を決定。 - 対策内容について関係機関と調整し、対策を実施					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光				
目標					
2021 年までに対象区間の景観診断を実施 2025 年までに景観診断に基づいた対策内容について、実施完了					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	景観診断の実施	景観確保に向けた対策実施			
	景観確保に向けた取組検討				
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
直轄予算（国土交通省）					

<取組個票>

取組名称	二次交通のシームレス化			番号	BA-2
取組主体	国土交通省北海道運輸局				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号	A6、A7	
・ 二次交通のシームレス化に関する検討会を立ち上げ ・ 二次交通フリーパス導入に向けた受入環境整備の検討					
取組内容					
・ 2020年度の北海道内空港民間委託を契機とした二次交通活性化に関するワーキング立ち上げ、釧路空港・阿寒湖間等を運行する既存二次交通の利便性強化に関する調査を行ったことから、調査結果を翌年度以降に展開。 ・ 広域周遊観光促進のための観光地域支援事業の一環として、2次交通フリーパス導入に向けた受入環境整備を行ったことから利用促進を計る。(国土交通省) <具体的な取り組み> ・ 既存二次交通の利便性強化に向けた、調査結果をふまえ自走化を計る。 ・ 二次交通フリーパスの利用促進を計る。					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光				
目標					
・ 2022年度以降に自走化を目指す					
	2021（令和3）	2022（令和4）	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）
スケジュール	二次交通利便性強化				
	フリーパスの利用促進				
進捗状況	※2021年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
・ 直轄予算（国土交通省） ・ 広域周遊観光促進のための観光地域支援事業補助金（国土交通省）					

＜取組個票＞

取組名称	ひがし北海道 3 空港をつなぐロングトレイルの推進			番号	BA-3
取組主体	環境省、林野庁（関係森林管理署）、国土交通省北海道運輸局、関係自治体、観光協会				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号	B3	
既存トレイル、開発中の新規トレイルの調査を実施し、「トレイルネットワーク構想」および「トレイルに関するガイドライン」を策定して、持続可能なトレイル運営体制のあるべき姿等について 2020 年度中に地域協議会で合意し、また新規トレイルを公園計画に歩道として位置づける予定。					
取組内容					
ロングトレイル運営体制とトレイル維持管理体制を構築し、阿寒摩周国立公園内をめぐるトレイルとひがし北海道 3 空港と国立公園をつなぐロングトレイルの実現を目指す。					
＜具体的な取り組み＞					
・阿寒地域と摩周地域を結ぶ新規トレイルの直轄整備に向けた準備および整備を実施（維持管理体制の決定、路線の決定、環境調査の実施、歩道整備）（環境省）					
・ロングトレイル上の宿泊地点（約 20km 間隔）を設定し、必要に応じて宿泊施設拠点（山小屋、野営場など）として公園計画に位置づけ、整備に向けた準備および整備を実施（環境省、関係自治体）					
・ひがし北海道 3 空港から国立公園内のトレイルを繋ぐ広域の仕掛けとして、サイクリング、ロングカヌーなどの非動力の移動アクティビティを検討し、実現に向けた課題を整理したうえで解決方法を関係者で協議、実践（環境省、北海道運輸局、北海道開発局、関係自治体と観光協会）					
・ロングトレイル運営体制およびトレイル維持管理体制案を策定し、地域で協議・合意（環境省）					
・ロングトレイルの共用と情報発信を開始し、モデルコースを設定してモニターツアーを実施（観光協会）					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光				
目標					
・2024 年までにトレイル運営体制を固める					
・2025 年までに新規トレイルおよび宿泊施設の整備を完了する					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	阿寒と摩周を結ぶトレイル整備の準備		阿寒と摩周を結ぶトレイルの整備		
	宿泊施設整備の準備		宿泊施設の整備		
	各地域のトレイルの整備・広域の仕掛け検討&協議				共用&情報発信開始
	ロングトレイル運営体制・トレイル維持管理体制案の策定・協議・合意				トレイル運営開始
進捗状況					
想定している予算措置					
直轄予算（環境省）、自然環境整備交付金（環境省）、国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）、地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁）					

<取組個票>

取組名称	阿寒摩周国立公園におけるインナーブランディングの推進			番号	BA・4
取組主体	環境省、広域観光協議会				
SUP2020 との関連	新規・継続	関連施策の番号			
環境省本省が作成したブランディング戦略に基づき、阿寒摩周国立公園を含む日本の国立公園のストーリー集を作成					
取組内容					
阿寒摩周国立公園の観光事業者や地域住民が、国立公園の豊かな自然環境を基盤として事業や生活が成り立っていることを理解し、旅行者に対しても国立公園の魅力や特徴を自らの言葉で語れるようにインナーブランディングを進める					
<具体的な取り組み>					
- 阿寒摩周国立公園の観光事業者や地域住民から、国立公園の自然にまつわる生業や暮らしに関するストーリーを聞き出し、文章化してまとめたものを WEB や冊子等の媒体としてまとめて発信する（環境省） - 関係自治体と連携し国立公園の内外に積極的に周知を図る。（広域観光協議会） - 国立公園内で自然環境への保全などに取り組みながら適切に営業している事業者に対し、国立公園ロゴマークの使用を認めるなど、応援できるような仕組みについて検討する（環境省） - 国立公園の管理運営への協力者を増やしていくため、観光事業者や地域住民向けに、国立公園の役割や制度についての理解を深めるための機会をつくる（環境省）					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光				
目標					
2022 年までに阿寒摩周国立公園に関するストーリーをまとめたブランドブックを作成する 2021 年までに国立公園内の適切な事業者の支援の仕組みを検討し、実行する					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	国立公園ストーリーの収集	国立公園ブランドブックの作成	国立公園ブランドストーリーの発信		
	事業者応援の仕組みを検討	事業者応援の仕組みを実施及び改善（以後継続）			
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
直轄予算（環境省）					

＜取組個票＞

取組名称	国立公園へのアクセスルート上での情報発信の強化			番号	BA- 5
取組主体	環境省				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号	A1、A2、A3	
・ 2018（平成 30）年に、釧路空港、中標津空港、釧路フィッシャーマンズワーフ MOO に多言語対応の案内板を設置した。 ・ アクセスルート上のエントランス看板の設置個所、構造について検討を行って来た。					
取組内容					
・ 主要交通拠点において、阿寒摩周国立公園に誘導するための多言語に対応した案内板・パンフレットの検討・設置等を行うとともに、利用者が国立公園であることを認知しやすいエントランス標識を設置する。 ＜具体的な取り組み＞ ・ 女満別空港への多言語対応案内板の設置を目指し、関係機関と調整を行う。（環境省） ・ 各空港、主要駅、道の駅等に国立公園内に誘導する内容の、多言語化したパンフレットを設置する。（環境省） ・ 道路管理者、土地所有者と調整し、アクセスルート上にエントランス標識を設置する。（環境省、（道路管理者・土地所有者として国土交通省北海道開発局、北海道））					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1）ウィズコロナ 2）ひがし北海道 AT 3）官民連携 4）トレイルネットワーク 5）新たな利活用 6）利用者目線 7）持続可能な観光				
目標					
・ 2021 年度中に多言語対応案内板の設置について関係者との調整を行い、2022 年度中に設置する。 ・ 2021 年から空港、主要交通拠点に誘客に有効なパンフレットの設置を開始し、在庫管理を行う。 ・ 2021 年までに阿寒湖地域、摩周地域の最も主要な入口にエントランス標識を設置し、地権者等との調整が付き次第順次設置箇所を増加させ、2023 年度までに主要な入口全てに設置する。					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	女満別空港に多言語対応案内板を設置				
	空港及び、主要交通拠点に置くパンフレット選定	パンフレットの設置及び管理			
	阿寒湖地域、摩周地域エントランス標識設置	エントランス看板デザイン決定・設置			
進捗状況	※2021 年度以降のフォローアップに使用				
想定している予算措置					
※ 直轄予算（環境省）					

<取組個票>

取組名称	アドベンチャートラベルの推進			番号	BA-6
取組主体	国土交通省北海道運輸局、環境省、経済産業省北海道経済産業局、北海道				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号	H4	
・ Adventure Travel World Summit への参加等、戦略的なプロモーション等を実施					
取組内容					
・ ATWS2021 の北海道開催により AT 旅行目的地としての認知度を飛躍的に高め、北海道におけるアドベンチャートラベルの更なるブランド化を図るため、2017（平成 29）年 6 月に設立の「北海道アドベンチャートラベル協議会」と連携し、「地域の観光資源を活用したプロモーション事業」等を活用して、継続してプロモーションを実施していく。（国土交通省北海道運輸局） ・ 知床国立公園、釧路湿原国立公園と連携し、ひがし北海道における AT の受入れ体制を強化する（環境省） <具体的な取組> ・ Adventure Travel World Summit への参加。（国土交通省北海道運輸局、経済産業省北海道経済産業局） ・ 旅行会社及びメディアによるファミトリップ。（国土交通省北海道運輸局） ・ WEB、SNS 等による情報発信。（国土交通省北海道運輸局） ・ 2021 年の ATWS 開催期間中にひがし北海道 3 公園の PR を実施する（環境省） ・ 阿寒摩周国立公園の新しいアクティビティとしてマウンテンバイク、クロスカントリースキー等の可能性を検討し、課題を整理する（環境省） ・ 阿寒摩周国立公園内のビジターセンタースタッフ向けの AT に関する研修を実施する（環境省） ・ 上記取組の知床国立公園、釧路湿原国立公園への展開について各公園とともに検討する（環境省） ・ ガイドの育成研修の実施（北海道）					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光				
目標					
・ 2021 年以降も継続したプロモーションの実施（国土交通省北海道運輸局） ・ 2022 年までに新しいアクティビティの可能性について検討し、課題を整理する（環境省）					
	2021（令和 3）	2022（令和 4）	2023（令和 5）	2024（令和 6）	2025（令和 7）
スケジュール	ATWS 参加	ATWS 参加	ATWS 参加	ATWS 参加	ATWS 参加
	アドベンチャートラベルの普及・促進				
	新しいアクティビティの検討と課題整理		新しいアクティビティの開発・ビジターセンタースタッフの研修実施 知床国立公園、釧路湿原国立公園への展開について検討		
進捗状況	※2021 年度以降の フォローアップ に使用				
想定している予算措置					
直轄予算（国土交通省、環境省、北海道）・広域周遊観光促進のための観光地域支援事業補助金（観光庁）					

<取組個票>

取組名称	阿寒摩周国立公園広域観光協議会による1市10町の機能強化			番号	BA-7
取組主体	広域観光協議会				
SUP2020 との関連		新規・継続	関連施策の番号		
・ ロングトレイル講習会や各種ガイドセミナーなどを活用した1市10町の情報共有の場の提供 ・ 道東3空港や新千歳空港からの二次交通の充実をはじめとした誘導策や、アクセス強化に向けた検討 ・ ブランディング戦略やプロモーション戦略を踏まえた具体的なプロモーションの推進					
取組内容					
・ コロナ禍の中、当面は Web を中心とした発信力強化を主力として、レンタカーを利用するF I Tに対するアプローチを行いつつ、インバウンド需要が復活した場合を見据え、新しいスタイルの観光に必要な機能の構築に向けた取組を実施する。 ＜具体的な取り組み＞ ・ 関係自治体による新型コロナウイルス感染症対策に係る情報共有を行い、クラスター（集団感染）発生によるブランド力の低下を防ぐ取組を国立公園エリア内で徹底させる。 ・ 道東を観光する国内外の観光客共通の課題である二次交通の改善について、国土交通省など関係機関と情報共有及び協議を行い、具体的な充実策の実施を検討する。 ・ インバウンド需要の復活を見据え、多言語対応などの受入体制整備について意見交換を行い、共通課題についてはロードマップを作成し歩調を合わせて推進する。					
エリア	阿寒湖 オンネトー・雌阿寒岳 川湯温泉・硫黄山 摩周湖 屈斜路湖 阿寒摩周国立公園全体 国立公園外も含む広域				
重点取組	1) ウィズコロナ 2) ひがし北海道 AT 3) 官民連携 4) トレイルネットワーク 5) 新たな利活用 6) 利用者目線 7) 持続可能な観光				
目標					
・ 2021 年までに新型コロナウイルス感染症対策の取組情報を共有し、特に各業界団体が作成したガイドラインの徹底についてはA T W S開催までに1市10町全体のレベル向上を推進し、観光事業関係者や観光客へのPRを行う。 ・ 2022 年までに二次交通の改善について、関係機関と情報共有及び協議を行い、社会実装等が実施される場合は実施に向け協力する。 ・ 2025 年までに主要観光施設の多言語化対応の完了を目指す。					
	2021（令和3）	2022（令和4）	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）
スケジュール	二次交通のあり方 検討		利用者目線に立った二次交通のアクセス充実（以後継続）		
	名新型コロナウイルス 感染症対策の徹底				
	利用者目線に立った主要観光施設の多言語化対応（以後継続）				
進捗状況	※2021 年度以降の フォローアップ に使用				
想定している予算措置					
負担金予算（広域観光協議会構成員）、各種補助金など					